

Mageia のネットワーク インストール

リモート リポジトリを用いて Mageia をインストールするツール



本マニュアル内の文章とスクリーンショットは クリエイティブ・コモンズ 表示-継承 3.0 ライセンス <https://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/> [<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>] のもとで利用可能です。

本マニュアルは [NeoDoc](http://www.neodoc.biz) [<http://www.neodoc.biz>] によって開発された [Calenco CMS](http://www.calenco.com) [<http://www.calenco.com>] の助けを借りて作られました。

これはボランティアによってその自由な時間の中で書かれたものです。もし本マニュアルの改善を手助けしたいのであれば [Documentation チーム](https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team) [https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team] までご連絡をお願いします。

Mageia のネットワーク インストール

目次

小さな起動イメージを用いて Mageia をインストール	1
1. はじめに	1
1.1. ネット インストール メディア	1
1.2. インストールの段階	1
2. Stage 1 (インストール前の段階)	2
2.1. 起動	2
2.2. インストール方法	3
2.3. ネットワーク接続	6
2.4. ミラー	8
3. Stage 2 (インストール段階)	10
3.1. 使用する言語を選択する	10
3.2. 使用許諾契約とリリース ノート	12
3.3. SCSI を設定する	13
3.4. インストールもしくはアップグレードを行う	14
3.5. キーボード	14
3.6. パーティションの設定	15
3.7. ソフトウェア	26
3.8. ユーザの管理	32
3.9. グラフィカル設定	34
3.10. ブート ローダ	37
3.11. 設定の概要	42
3.12. ロケール	45
3.13. サービスを設定する	47
3.14. マウスを選択する	48
3.15. サウンドの設定	49
3.16. セキュリティ レベル	50
3.17. ファイアウォール	51
3.18. 更新	52
3.19. おめでとうございます	53
3.20. Mageia をアンインストールする	53

図目次

1. BIOS のようこそ画面	2
2. UEFI のようこそ画面	3
3. EFI システム パーティション	23
4. BIOS ブート パーティション	24

小さな起動イメージを用いて Mageia をインストール

1. はじめに

1.1. ネット インストール メディア

1.1.1. 説明

これらの最小限の ISO は:

- サイズが 100 MB 未満で、これは、DVD 全体をダウンロードするのに回線が遅すぎる場合や、PC に DVD ドライブがなく USB スティックからのブートもできない場合に便利です。
- 以下に必要なもの以外を含みません。a) DrakX インストーラを開始 b) DrakX-installer-stage2 とインストールの続行および完了に必要な他のパッケージを見つける

要求されるソース パッケージは PC のハード ディスク, ローカルのドライブ, ローカル ネットワーク, インターネット上から利用できます。



暗号化された wifi または bluetooth 経由のインストールはサポートされません。

1.1.2. 種類

ネット インストール メディアには二つのバージョンがあります:

- netinstall.iso 非フリーなソフトウェアを使用しないことを好む方々に向けたものとなります。
- netinstall-nonfree.iso この ISO はプロプライエタリなデバイス ドライバを追加で含み、お使いのネットワーク デバイスやディスク コントローラなどに必要となる可能性があります。

どちらのバージョンも 32 ビットと 64 ビットの ISO の形で利用可能です。こちらを参照してください: <https://www.mageia.org/ja/downloads/>

1.1.3. 準備

イメージをダウンロード後、CD/DVD にこれを焼くか、または USB スティックに書き込みたいのであればこちらの手順に従います: https://wiki.mageia.org/en/Installation_Media#Dump_Mageia_ISO_s_on_an_USB_stick

1.2. インストールの段階

インストールは二つの段階で行われます:

- Stage 1 これはインストール前の段階です。インストールに用いられるファイルを含むメディアにアクセスするための方法と詳細を指定する必要があります。その方法がサーバを用いるものであれば、ネットワーク接続が有効化されます。
- Stage 2 これは実際のインストールの段階で、インストーラのファイルに接続できしだい自動的に開始します。



Stage 1 の間は、お使いのハード ディスクには何も書き込まれないため、お望みであればどの時点でも安全に中止することができます。そのためには Ctrl+Alt+Del を押しします。



ログを参照するには Alt+F3 を、インストーラの画面に戻るには Alt+F1 を使用しません。



DVD や ライブ CD からのインストール時とは異なり、インストールの最初の段階 (Stage 1) では、入力を行う場面があります。この段階では、お使いのキーボードは[アメリカ式のキーボード](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AD%E3%83%BC%E9%85%8D%E5%88%97#101.E3.82.AD.E3.83.BC.E3.83.9C.E3.83.BC.E3.83.89) [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AD%E3%83%BC%E9%85%8D%E5%88%97#101.E3.82.AD.E3.83.BC.E3.83.9C.E3.83.BC.E3.83.89]のレイアウトで動作します。これは名前やパスを入力する必要がある場合にとても紛らわしいものになるかもしれません。

2. Stage 1 (インストール前の段階)

2.1. 起動

ネット インストール メディアのブート時に表示されるようこそ画面は BIOS か UEFI のどちらのシステムでブートするかによって異なります。以下の二つのスクリーンショットをご覧ください:

```
                Welcome to Mageia install help

In most cases, the best way to get started is to simply press the <Enter> key.
If you experience problems with standard install, try one of the following
install types (type the highlighted text and press <Enter>):

o text for text installation instead of the graphical one.
o linux for standard graphical installation at normal resolution.
o linux vga=785 for low resolution graphical installation.

To repair an already installed system type rescue followed
by <Enter>.

You can also pass some <specific kernel options> to the Linux kernel.
For example, try linux noapic if your system has trouble operating
your network adapter correctly.
NOTE: You cannot pass options to modules (SCSI, ethernet card) or devices
such as CD-ROM drives in this way. If you need to do so, use noauto mode.

[F1-Help] [F2-Advanced Help]
boot: _
```

図1 BIOS のようこそ画面

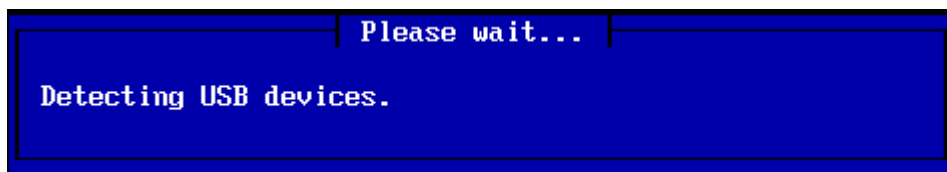
起動の際には、F2 を押すことで高度なヘルプを参照でき、F1 を押すことでインストーラの画面に戻ることができます。いずれも押されなかった場合、既定の設定で起動処理が続行します。



図2 UEFI のようこそ画面

- 矢印キーを用いて Start Mageia Install を選択し、Enter を押してください。

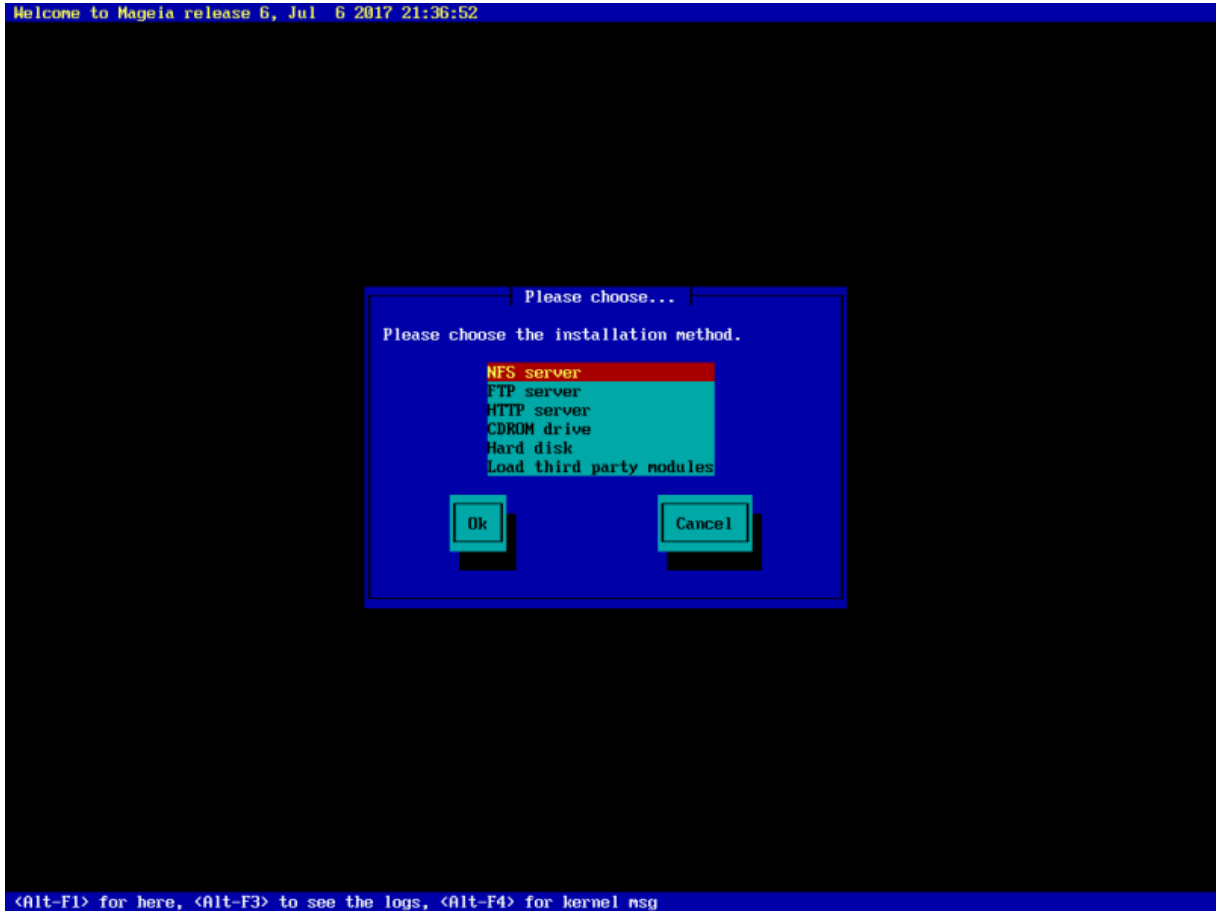
BIOS と UEFI の両方のシステムで、USB デバイスが検出されたことを示すポップアップ通知が表示されます:



2.2. インストール方法

ここで CDROM/HDD やサーバ (NFS, FTP, HTTP) といったインストール方法を選択できます。

この時点でサードパーティ モジュールの読み込みを行うことができます。



- 適切なインストール方法が強調表示されるまで矢印キーを用いて一覧を上下に動かします。
- Ok が強調表示されるまで Tab キーを押して Enter を押します。

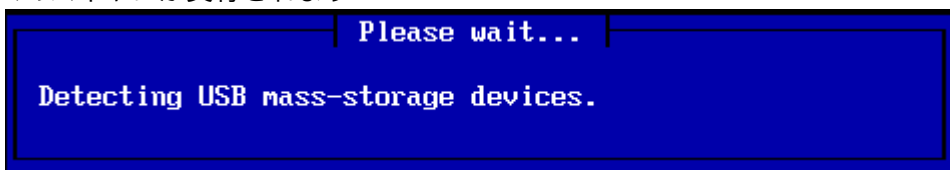
2.2.1. サーバ

- ネットワーク インストールの場合、どれを選択するべきか分からないのであれば FTP server を選択してください。
- 企業のネットワークでは、FTP と rsync はブロックされるかもしれません。そのため、この場合は HTTP server がよい選択です。

いずれかのサーバを選択すると、自動的に [Network Connection](#) セクションに進みます。

2.2.2. CDROM/HDD

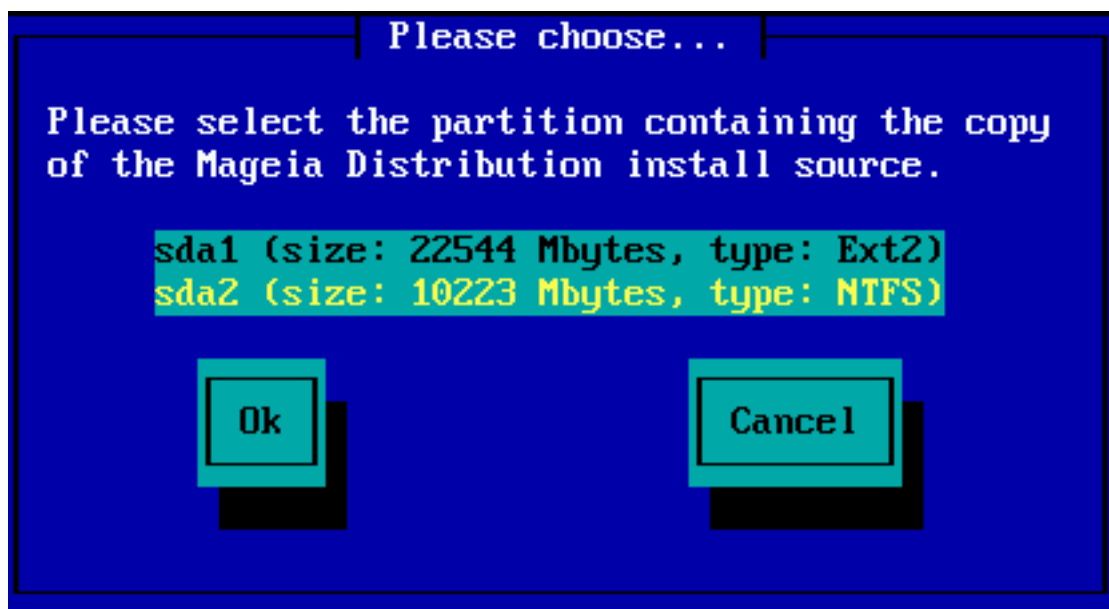
CDROM かハードディスク (または USB スティック) からのインストールを選択した場合、ストレージ デバイスのスキャンが実行されます:



- はじめに、関連するハード ドライブ (または USB スティック) を選択します。

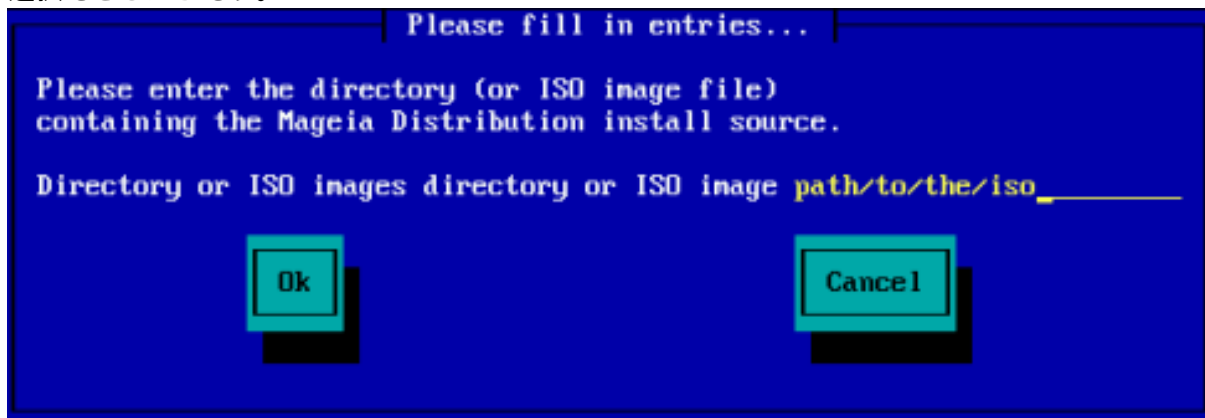


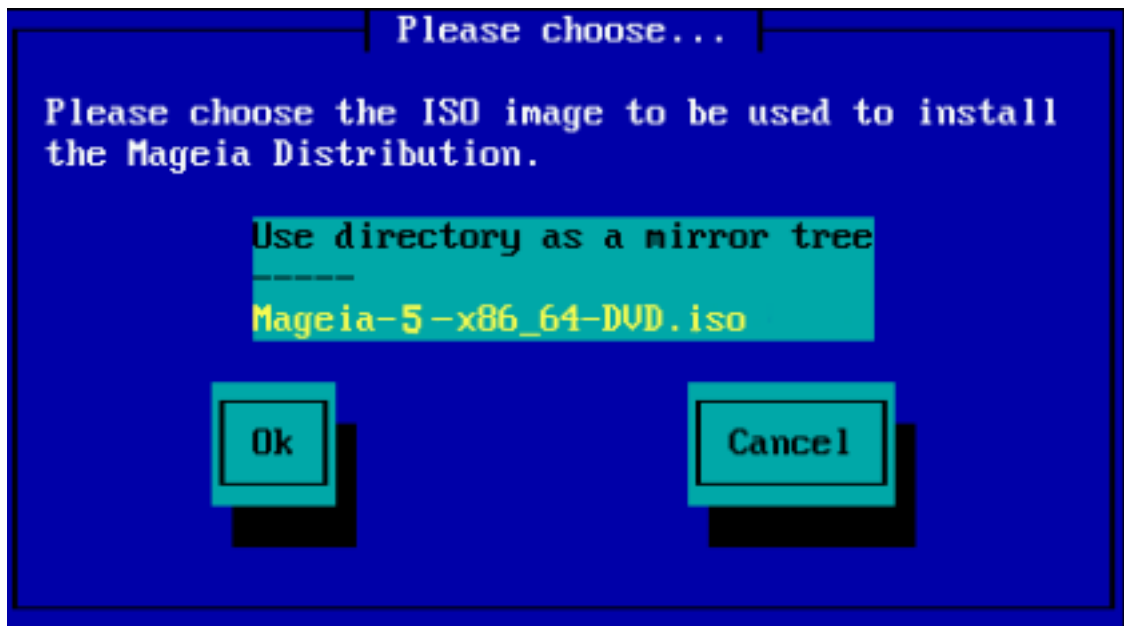
- 続いて、関連するパーティションを選択します。



- そして ISO のディレクトリまたはファイル名を指定します。

項目の少ないディレクトリを使用するのがより簡単です。これはインストーラがディレクトリやファイルの一覧を示し、その一覧では下の二番目の画像で分かるように上下の矢印キーで項目を選択できるからです。

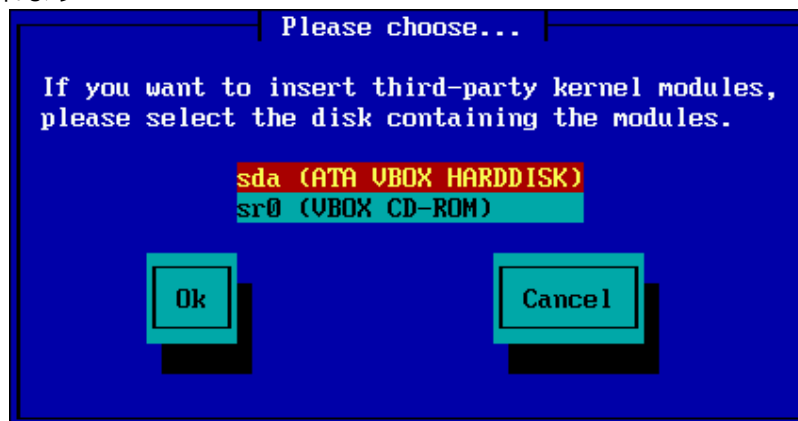




ISO の場所についての情報が与えられると、CDROM や HDD の場合、自動的に [Stage 2](#) (実際のインストール段階) に進みます。

2.2.3. サードパーティのモジュールを読み込む

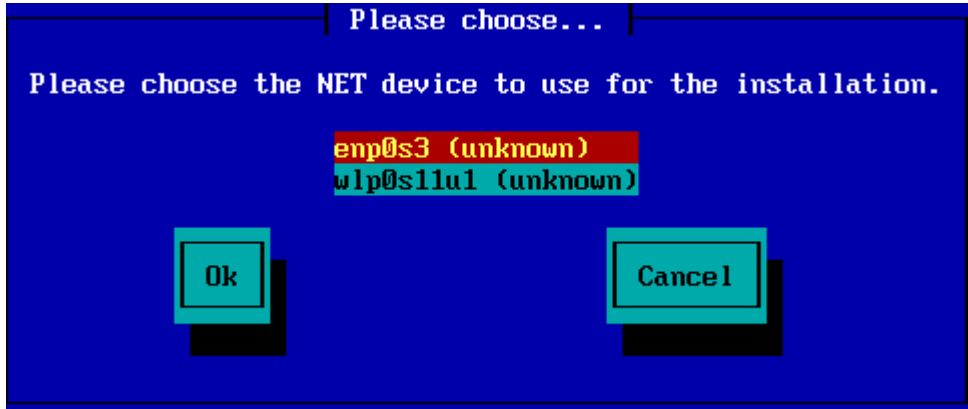
サードパーティのモジュールを読み込むことを希望する場合、そのモジュールを含むディレクトリの場所を訊かれます:



2.3. ネットワーク接続

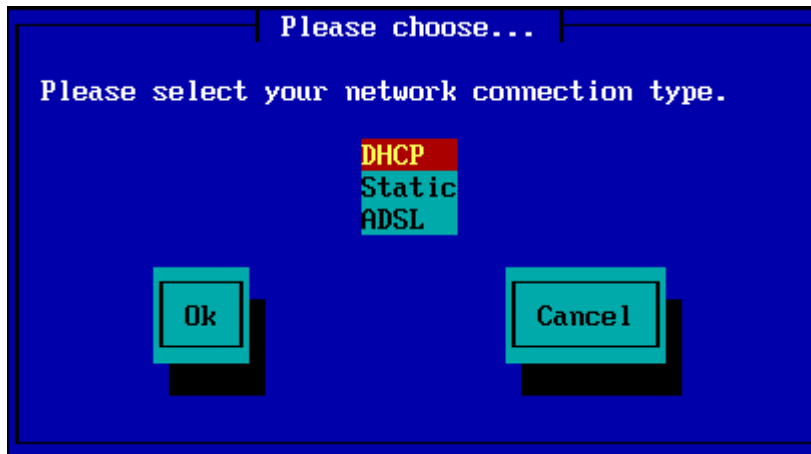
2.3.1. 接続デバイス

インストール方法の段階でいずれかのサーバを使用することを選択した場合、ネットワーク デバイスの選択を求められます:



2.3.2. 接続の種類

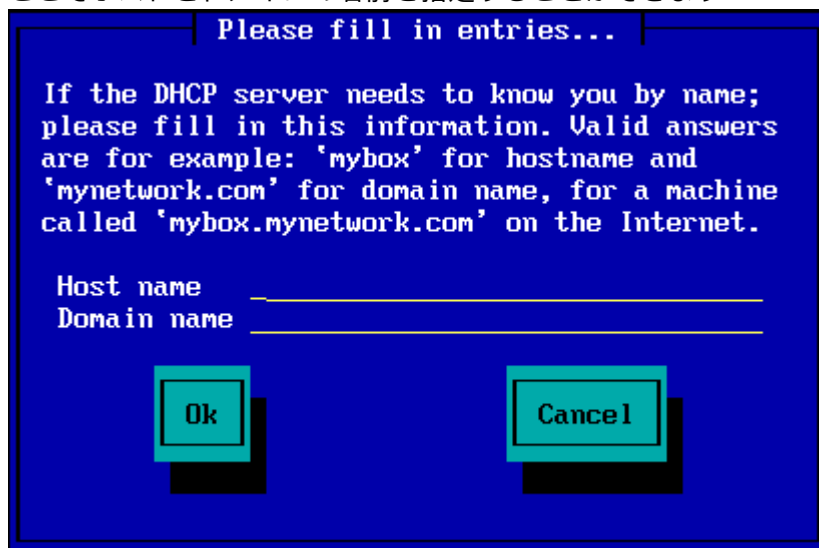
ここでネットワーク デバイスが DHCP, Static, ADSL 接続を使用するかどうかを選択する必要があります:



どの選択肢が適しているかが分からない場合、おそらく既定の選択肢 (DHCP) を受け入れるべきでしょう。

2.3.3. ホスト / ドメイン名

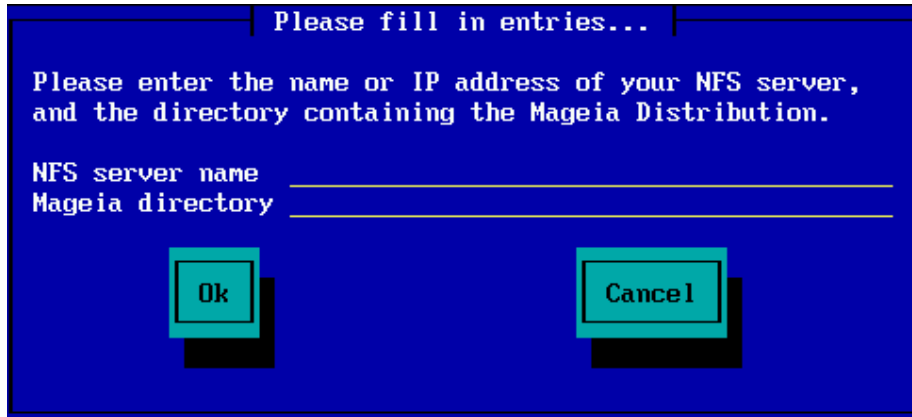
必要があれば、ここでホストとドメインの名前を指定することができます:



- この意味が分からない場合、このフィールドを空白にして Ok を強調表示して Enter を押して続行します。ネットワーク接続はここで有効化されます。

FTP か HTTP を使用している場合、自動的に [Mirrors](#) セクションに進みます。

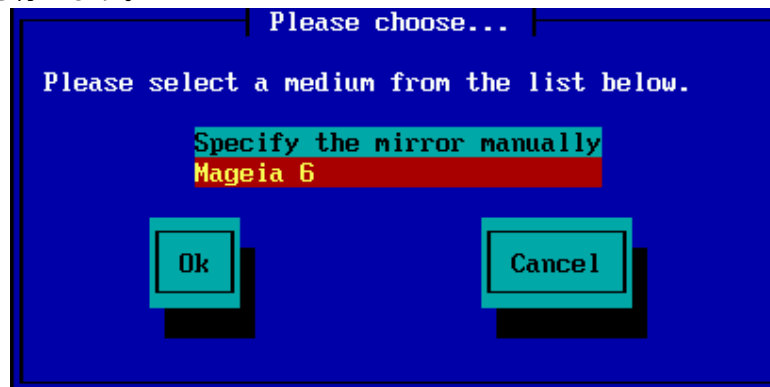
NFS を使用している場合、NFS サーバの名前と Mageia ディストリビューションを含むディレクトリの入力を求められます:



NFS の詳細を入力後、自動的に [Stage 2](#) (実際のインストールの段階) に進みます。

2.4. ミラー

FTP か HTTP を使用している場合、使用するミラーを指定する必要があります。これは手動でも一覧からの選択でも行えます。



2.4.1. 手動での指定

利用可能なすべてのミラーの一覧がこちらにあります: <http://mirrors.mageia.org/>

どのミラーを選択する場合でも、それは公式の Mageia ミラーで使用されるのと同じ "mageia" (または "Mageia") から始まるツリー状の構造を使用しているはずで、これは `.../mageia/distrib/<version>/<arch>` を意味します。

下の Mageia directory のフィールドの正しいエントリ (公式ミラー使用時) は下のようになります:

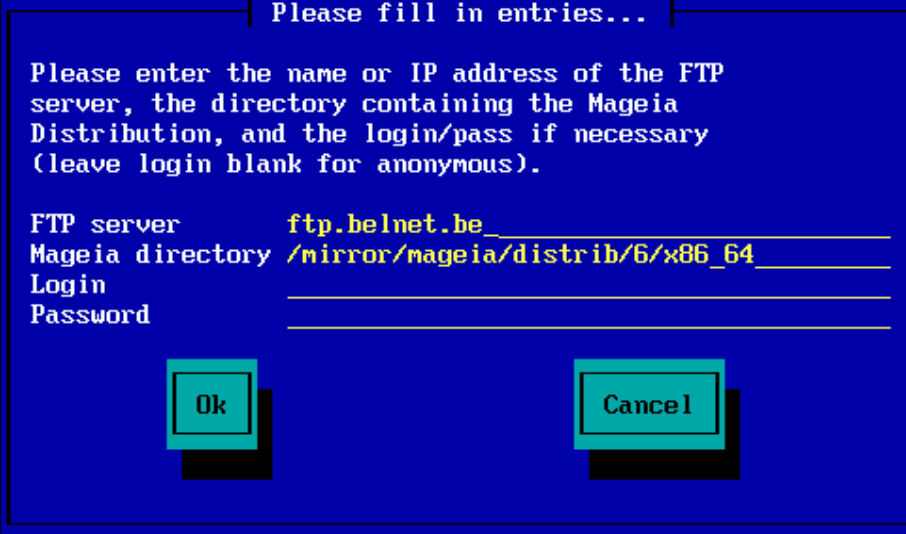
```
pub/linux/mageia/distrib/cauldron/i586
```

別の例 (Mageia 6 x86_64):

```
pub/Mirrors/Mageia/distrib/6/x86_64
```

他のミラーはパス構造が異なる可能性があり、下に示すスクリーンショットはその具体例となります:

FTP サーバを使用している場合:



A terminal window with a blue background and white text. The title bar reads "Please fill in entries...". The main text asks for FTP server details. The fields are filled with "ftp.belnet.be", "/mirror/mageia/distrib/6/x86_64", and blank lines for login and password. "Ok" and "Cancel" buttons are at the bottom.

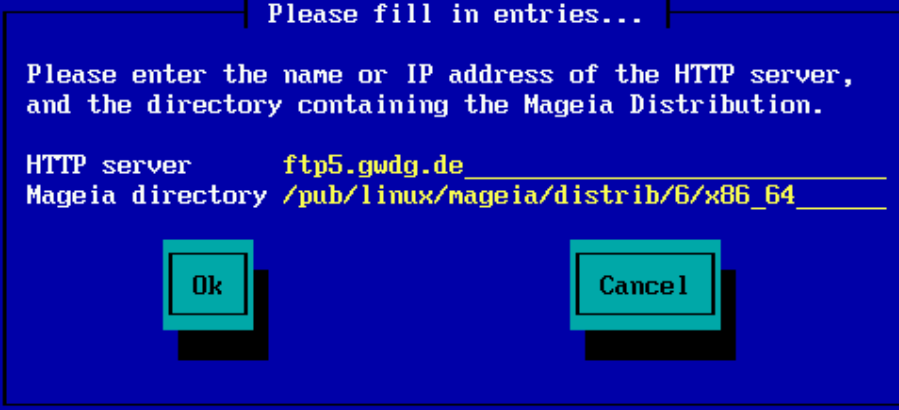
```
Please fill in entries...

Please enter the name or IP address of the FTP
server, the directory containing the Mageia
Distribution, and the login/pass if necessary
(leave login blank for anonymous).

FTP server      ftp.belnet.be_____
Mageia directory /mirror/mageia/distrib/6/x86_64_____
Login          _____
Password       _____

Ok              Cancel
```

HTTP サーバを使用している場合:



A terminal window with a blue background and white text. The title bar reads "Please fill in entries...". The main text asks for HTTP server details. The fields are filled with "ftp5.gwdg.de" and "/pub/linux/mageia/distrib/6/x86_64". "Ok" and "Cancel" buttons are at the bottom.

```
Please fill in entries...

Please enter the name or IP address of the HTTP
server, and the directory containing the Mageia
Distribution.

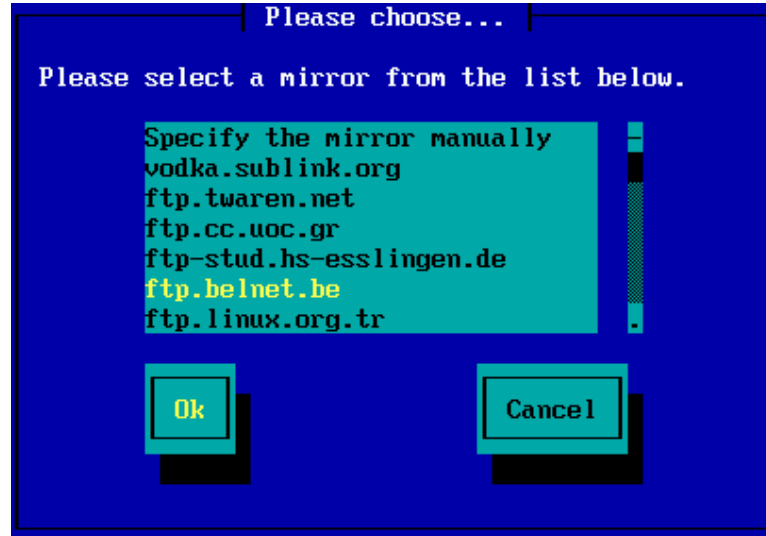
HTTP server     ftp5.gwdg.de_____
Mageia directory /pub/linux/mageia/distrib/6/x86_64_____

Ok              Cancel
```

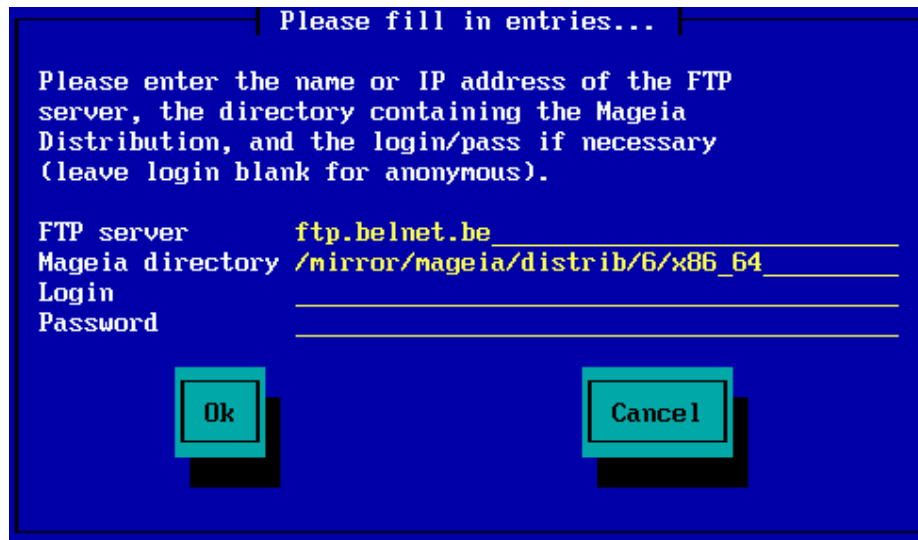
この情報が提供されると、自動的に [Stage 2](#) (実際のインストール段階) に進みます。

2.4.2. 一覧から選択する

もしインストール中に依存関係についてのエラーがたくさん出る場合、再起動して異なるミラーを試してください。



FTP サーバを選択した後、必要な場合に追加でログイン名とパスワードを追加する画面が表示されます。



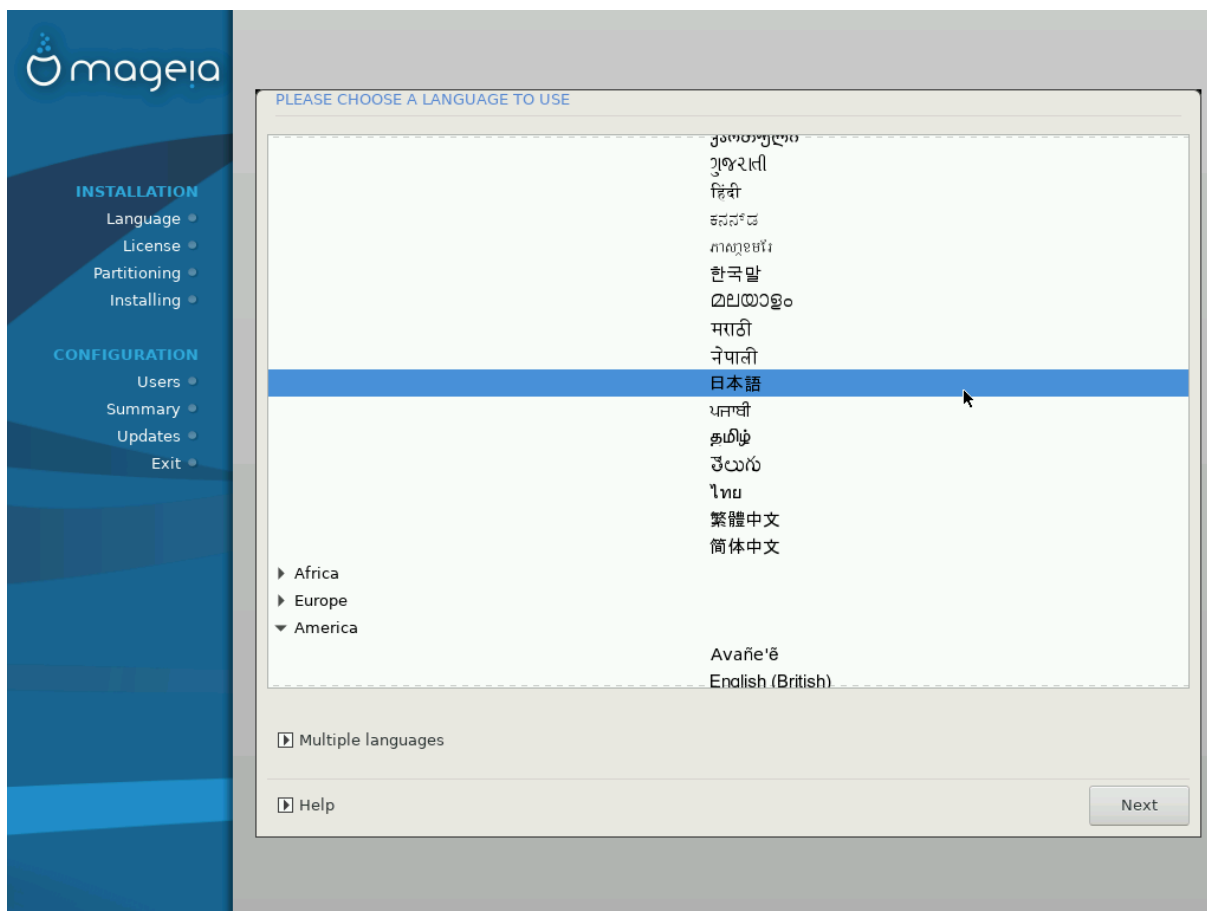
この情報が提供されると、自動的に [Stage 2](#) (実際のインストール段階) に進みます。

3. Stage 2 (インストール段階)

この時点ではお使いのハード ディスクには何も書き込まれていません。そのため、もし実際のインストールに進まないことを決めた場合はここで安全に再起動できます: Ctrl+Alt+F2 で tty2 に移動して Ctrl+Alt+Del を押します (気が変わった場合は Ctrl+Alt+F7 で戻ります)。

3.1. 使用する言語を選択する

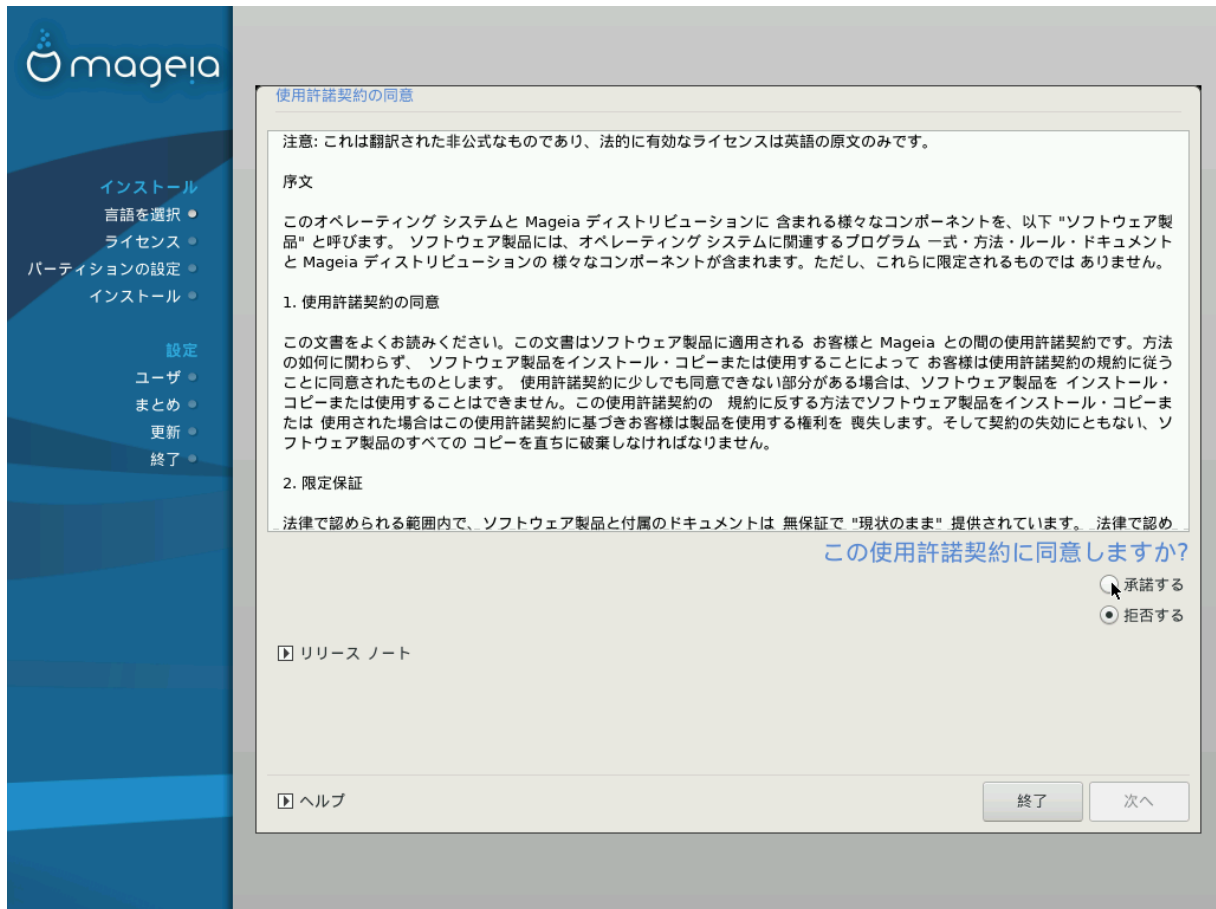
- はじめに、あなたのいる大陸についての一覧を展開して言語を選択します。Mageia はインストールの間とインストール後のシステムにこの選択を適用します。
- システムに幾つかの言語がインストールされることをあなた (や他のユーザ) が必要としている場合、複数の言語を用いてここでそれらを追加するのがよいでしょう。インストール後に言語サポートを追加するのは困難です。



複数の言語を選択した場合であっても、はじめに主な言語の一覧からいずれかをお好みの言語として選ばなければなりません。これは複数の言語の画面でも選択済みとマークされます。

- お使いのキーボードの言語がお好みの言語と同じでない場合、キーボードが要求する言語も同様にインストールするのが望ましいです。
- Mageia は既定で UTF-8 (Unicode) をサポートしています。これはあなたの言語で適切でないと分かっている場合に複数の言語画面で無効にすることができます。UTF-8 を無効にするとすべてのインストール済みパッケージに適用されます。
- お使いのシステムの言語はインストール後に Mageia コントロールセンター → システム → システムの言語を設定 で変更できます。

3.2. 使用許諾契約とリリース ノート



3.2.1. 使用許諾契約の同意

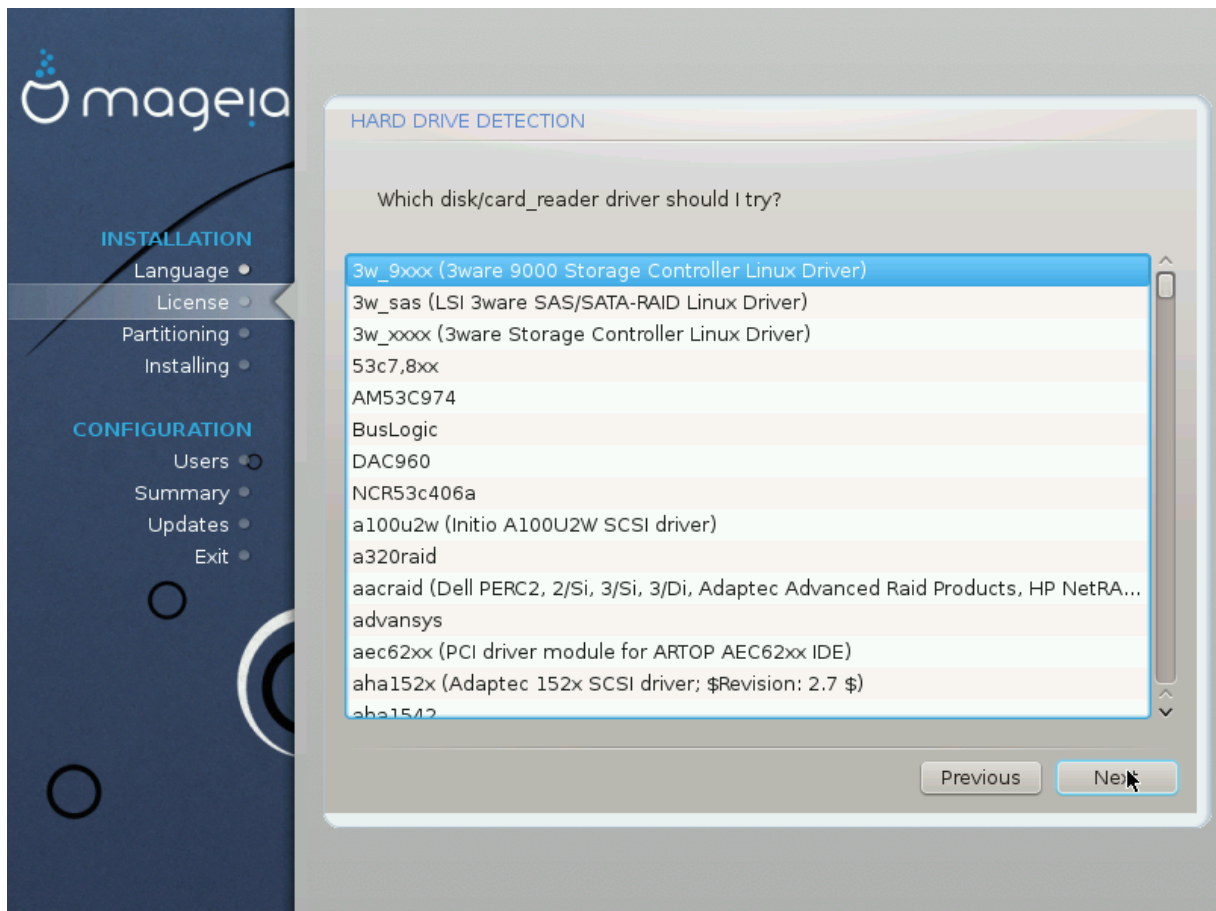
- Mageia をインストールする前に使用許諾契約の内容をよくお読みください。
- これらの使用許諾契約の内容は、Mageia ディストリビューション全体に適用され、あなたは続行する前にこれらに同意しなくてはなりません。
- 続行するには、単純に承諾するを選択して次へをクリックします。

もしこれらの条件を承諾しないと決めたのであれば、私たちはあなたが Mageia に興味をお持ちいただいたことに感謝します。終了をクリックするとコンピュータは再起動します。

3.2.2. リリース ノート

この特定の Mageia リリースについての重要な情報はリリース ノート ボタンをクリックすることで参照できます。

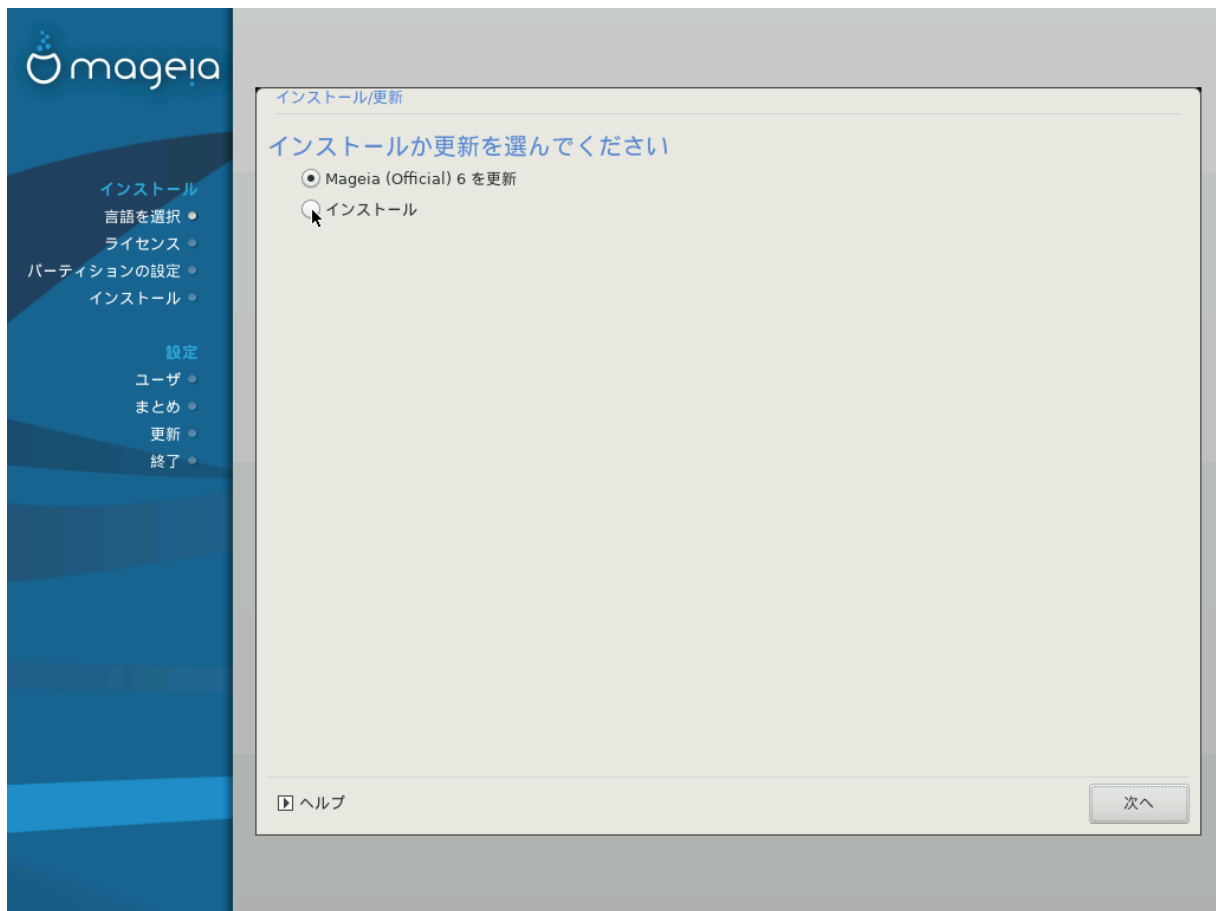
3.3. SCSI を設定する



DrakX は通常正しくハード ディスクを検出します。しかしながら、幾つかの古い SCSI コントローラでは正しいドライバを特定することができずにその後ドライブの認識に失敗するかもしれません。

お使いのデバイスが認識されない場合、手動で DrakX にお持ちの SCSI ドライブを知らせる必要があります。そうすれば DrakX は正しくドライブを設定できるはずで

3.4. インストールもしくはアップグレードを行う



- インストール

Mageia を一からインストールするにはこの選択肢を使用します。これは root パーティション (/) をフォーマットしますが、既存の /home パーティション (root (/) パーティション自体の一部ではなく、専用の /home パーティション) が分かればこれをそのままにできます。

- アップグレード

インストール済みの Mageia をアップグレードするには、これを選択してください。



このインストーラのバージョンが公開された時点でサポートが継続している過去の Mageia のバージョンからのアップグレードのみしか十分にテストされていません。これが公開された時点で既に「サポートが終了」しているバージョンの Mageia をアップグレードしたい場合は、/home パーティションを保持して「クリーン」インストールを行うのがよりよいでしょう。



追加の言語を選択し忘れたことに気づいた場合、Ctrl+Alt+Home を押すことでインストールもしくはアップグレードを行うの画面から言語選択画面に戻ることができます。インストールの後のステップになってからはこれを行わないでください。

3.5. キーボード

DrakX はあなたの使用する言語向けに適切なキーボードを選択します。適したキーボードが見つからない場合はアメリカ式のキーボード配列が既定になります。



- 選択が正しいかを確認し、間違っていれば別のキーボード配列を選択します。お使いのキーボードがどの配列か分からない場合、お使いのシステムに付属した仕様を見るか、コンピュータのベンダに確認してください。配列を識別するラベルがキーボードに貼ってある場合もあります。こちらも参照できます: ja.wikipedia.org/wiki/キー配列 [<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AD%E3%83%BC%E9%85%8D%E5%88%97>]
- 表示される一覧にお使いのキーボードがない場合、詳細をクリックしてより完全な一覧を表示し、そこでお使いのキーボードを選択します。



詳細ダイアログからキーボードを選択した後、最初のキーボード選択に戻り、その画面からキーボードが選択されたように見えます。これは無視してインストールを進めることができます: 完全な一覧から選択されたキーボードが適用されます。

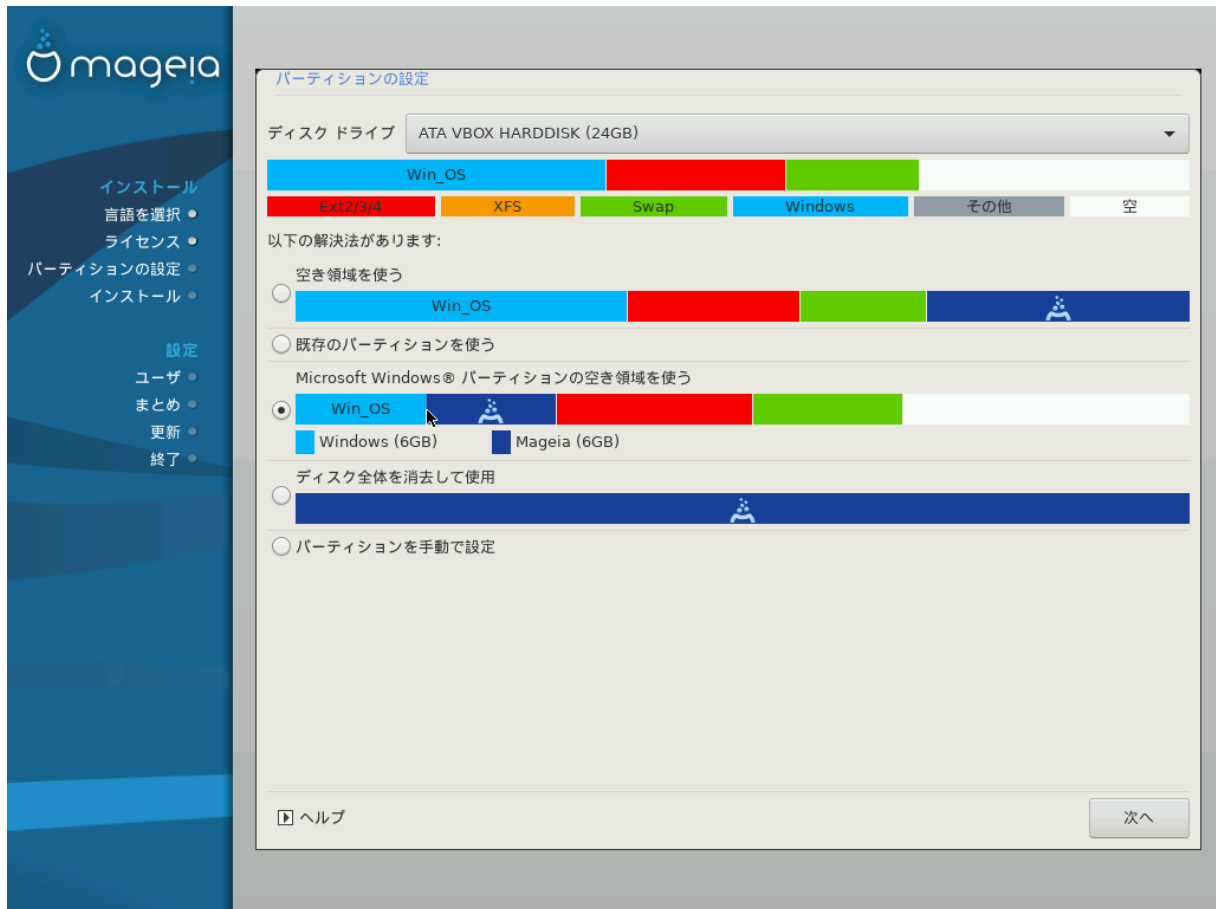
- 非ラテン文字に基づくキーボードを選択した場合、ラテンと非ラテンのキーボード配列をどのように切り替えたいかを質問する追加のダイアログが表示されます。

3.6. パーティションの設定

3.6.1. 自動パーティション設定

この画面ではお使いのハード ドライブの内容を DrakX による Mageia のインストール先の提案と一緒に見ることができます。

下に示された中から実際に利用可能な選択肢は、お使いの特定のハード ドライブのレイアウトや内容によって変化します。



主な選択肢

- 既存のパーティションを使う

この選択肢が利用できる場合、既存の Linux 互換のパーティションが見つかっており、インストールに使用できます。

- 空き領域を使う

お使いのハードドライブに未使用の領域がある場合にこの選択肢はそこを新しい Mageia のインストールに使用します。

- Windows パーティションの空き領域を使う

既存の Windows パーティションに空き領域がある場合、インストーラはそれを使用することを提案するかもしれませんが、これは新しく Mageia をインストールする領域を作成するための有用な方法になりえますが、リスクのある操作となるため、大事なファイルは事前にバックアップしておくのがよいでしょう!

この選択肢では、インストーラは残っている Windows パーティションを明るい青色で、Mageia 用に提案されたパーティションを暗い青色で、それぞれサイズも反映して下に表示します。これらのサイズは両方のパーティションの隙間のクリックとドラッグで変更できます。下のスクリーンショットをご覧ください。

- ディスク全体を消去して使用

この選択肢ではドライブの全体を Mageia 用に割り当てます。



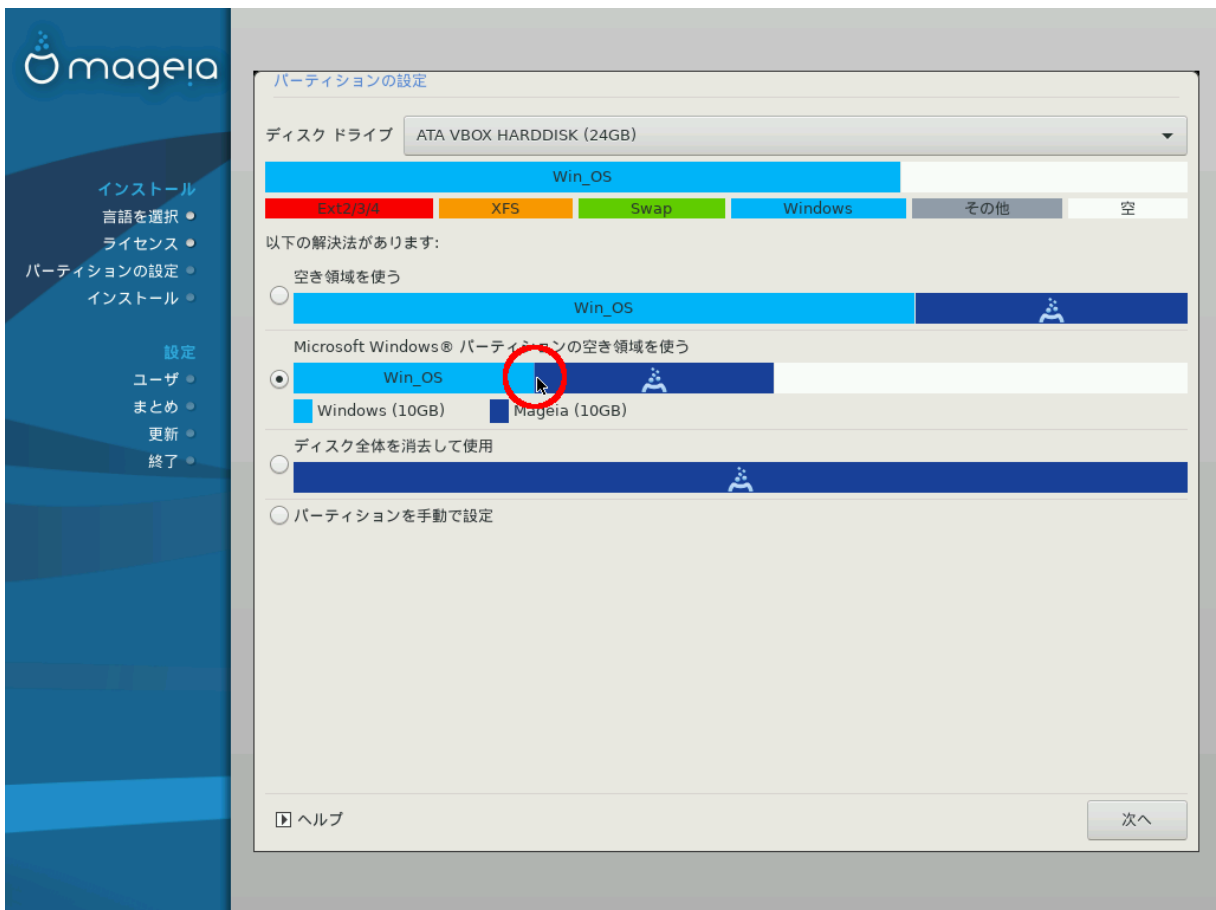
これは選択されたハード ドライブ上のすべてのデータを削除します。気をつけてください! ディスクの一部を他の用途で使用するつもりであるか、もしくは既にドライブ上にデータがあってそれが削除されることに備えていない場合、この選択肢は使用しないでください。



これは Windows のパーティションのサイズを縮めることを伴います。パーティションは "クリーン" でなければならず、これは Windows を前回使用したときに正常に終了していなければならないことを意味します。また、このパーティション内のすべてのファイルがこれから使用される領域から出ていくという保証ではないもののデフラグもされている必要があります。個人的なファイルはバックアップすることを強く推奨します。

• パーティションを手動で設定

これはお使いのハード ドライブ上のインストール場所を完全にコントロールすることができます。



パーティションを手動で設定を選択しない場合、インストーラは利用可能な領域を以下のルールに従って割り当てます:

- 合計空き領域が 50 GB 未満の場合、パーティションが一つだけ作られます。これは / (ルート) パーティションになります。
- 合計空き領域が 50 GB を超える場合、三つのパーティションが作成されます。
 - 合計空き領域の 6/19 が / に最大で 50 GB 割り当てられます。

- 1/19 がスワップに最大で 4 GB 割り当てられます。
- 残り (最低でも 12/19) が /home に割り当てられます。

これは 160 GB を超える空き領域がある場合にインストーラが三つのパーティションを作成することを意味します:

- / 用に 50 GB
- スワップ用に 4 GB
- /home 用に残りすべて



UEFI システムをお使いの場合、ESP (EFI システム パーティション) が自動的に検出され - 存在しなければ作成されて - /boot/EFI にマウントされます。これが正常に行われたかをチェックする唯一の方法はパーティションを手動で設定を選択することです。

Legacy (別名 BIOS) システムで GPT を用いたディスクをお使いの場合、BIOS ブートパーティションが存在しなければこれを作成する必要があります。これはマウントポイントのない約 1 MiB のパーティションとするべきです。パーティションを手動で設定でファイルシステムの種類を「BIOS boot partition」にすると、インストーラが他のパーティションのようにこれを作成することができます。

続行する方法の詳細は [DiskDrake](#) を参照してください。



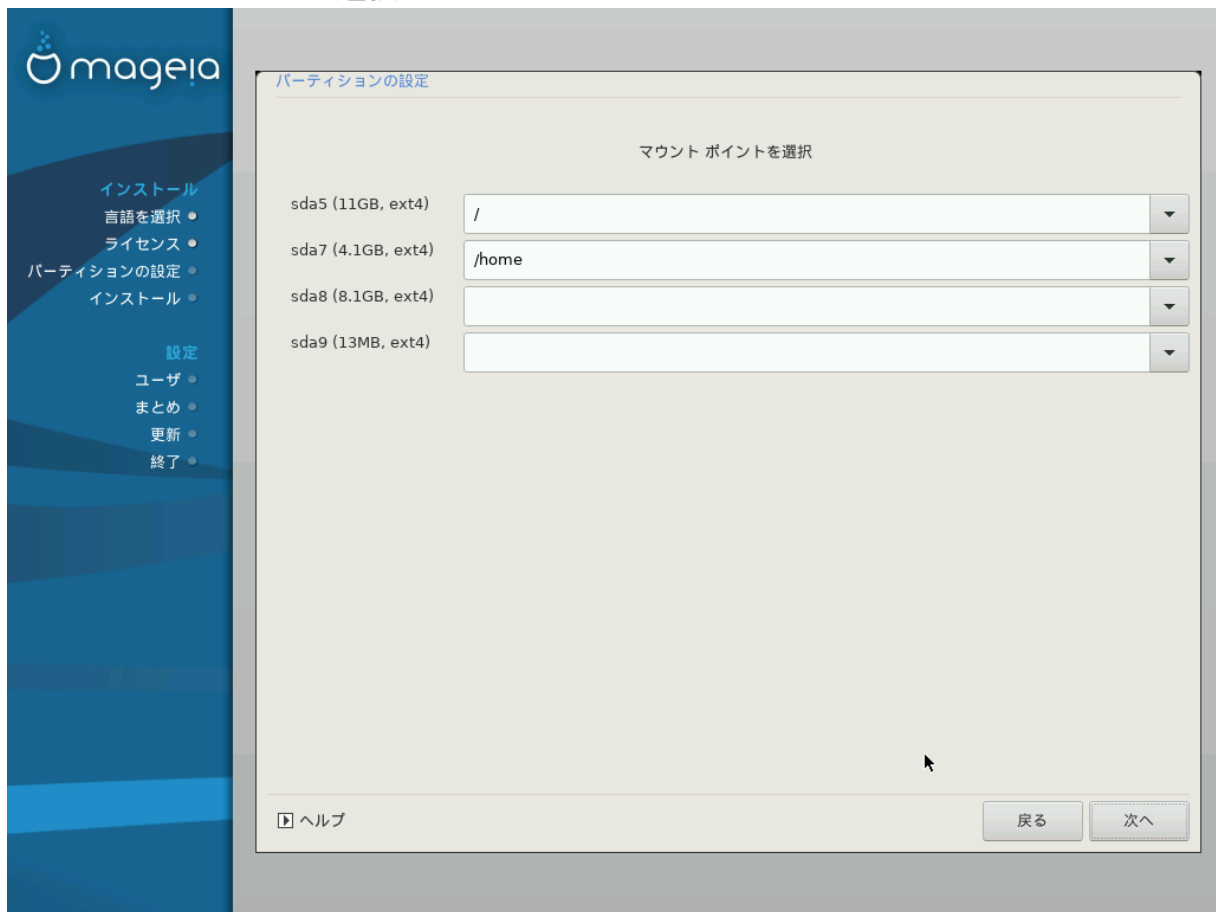
幾つかの新しいドライブは従来の標準である 512 バイトの論理セクタの代わりに 4096 バイトの論理セクタを現在使用しています。利用可能なハードウェアが不足しているため、インストーラで用いられるパーティション管理ツールはこのようなドライブをテストしていません。

幾つかの SSD デバイスは現在 1 MB より大きな削除ブロック サイズを使用しています。そのようなデバイスをお持ちの場合、私たちは gparted のような代替のパーティション管理ツールを用いて事前にドライブのパーティションを設定しておき、以下の設定を用いることを提案します:

- 位置あわせ = MiB
- 前方の空き領域 (MiB) = 2

すべてのパーティションが偶数のメガバイト単位で作成されていることも確認してください。

3.6.2. マウント ポイントを選択する



ここでお使いのコンピュータ上で見つかった Linux パーティションが見られます。DrakX が提案する内容を承諾しないのであれば、自分でマウント ポイントを変更することができます。

- ドロップ ダウン メニュー群の左側にあるのは利用可能なパーティションの一覧です。例: sda はハード ドライブで - 5 はパーティション番号、これにパーティションの (容量, マウント ポイント, ファイル システムの種類) が続きます。
- 幾つかのパーティションがある場合、異なる複数のマウント ポイントをドロップ ダウン メニューから /, /home, /var のように選択できます。自分でマウント ポイントを入力することも可能で、例えば映画保存用の /video や、データ保存用の /Data などです。
- 使用する必要のないパーティションに対しては、マウント ポイントの欄を空白にすることができます。



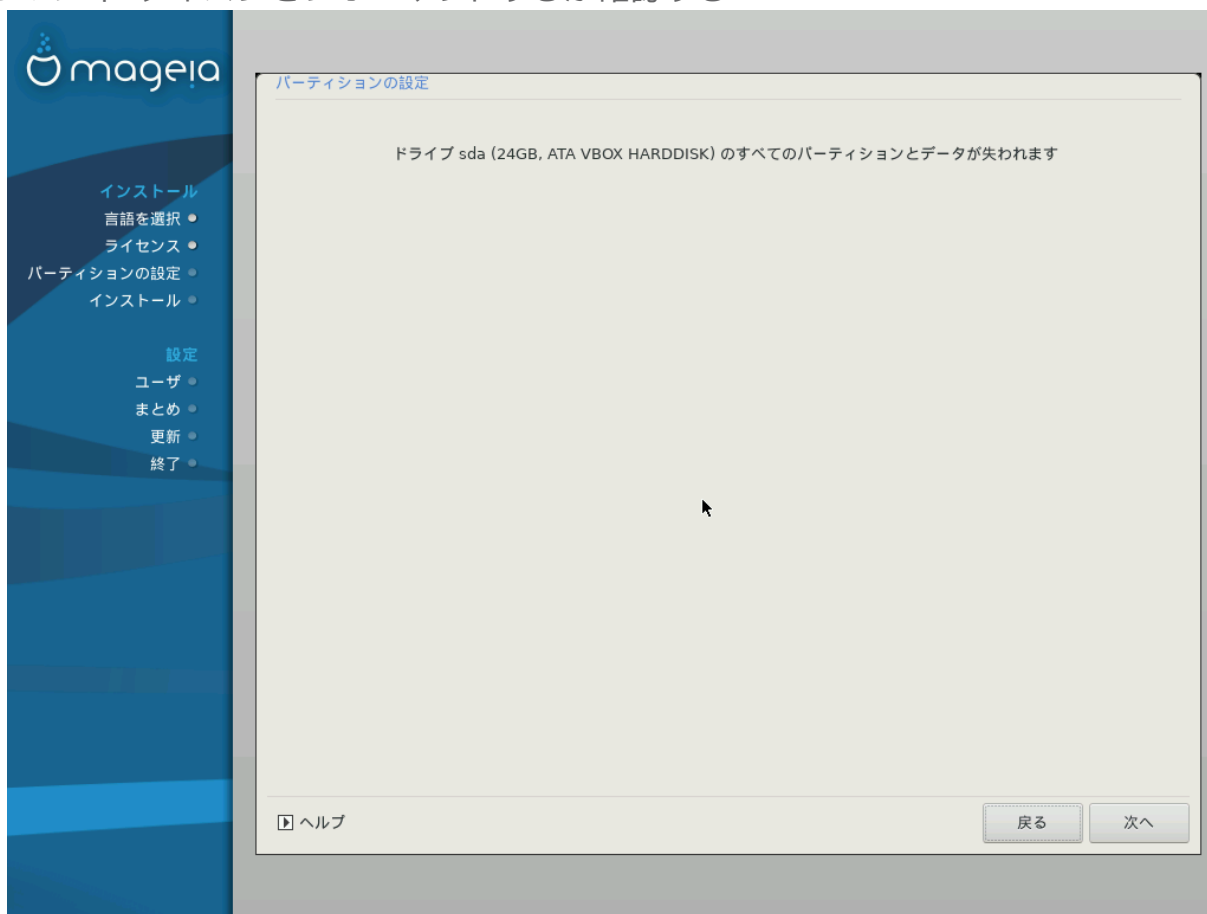
ここで変更を行った場合、/(ルート)パーティションが存在していることを確認してください。



どれを選択するか分からない場合、戻るをクリックして戻り、パーティションを手動で設定をクリックしてください。そこでは、パーティションをクリックするとその種類とサイズが参照できます。

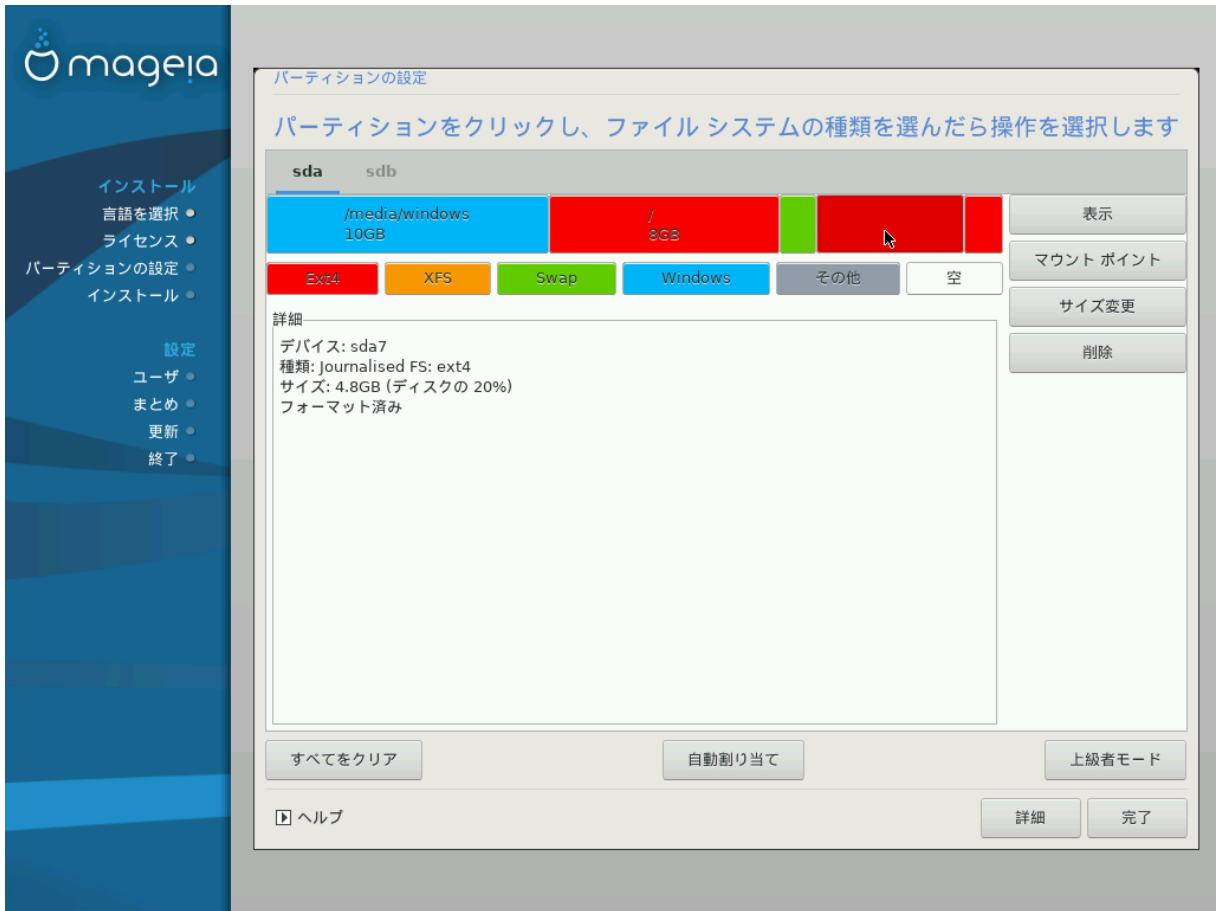
マウント ポイントが正しいことが確認できたら、次へをクリックし、DrakX が提案するパーティションのみをフォーマットするか他のパーティションもフォーマットするかを選択します。

3.6.3. ハード ディスクをフォーマットするか確認する



- 選択に全く自信がなければ戻るをクリックします。
- ハード ディスク上のすべてのパーティション, すべてのオペレーティング システム, すべてのデータを削除して構わないのであれば次へをクリックして続行します。

3.6.4. DiskDrake によるパーティションのカスタム設定



- ここでお使いのディスクのレイアウトを変更します。パーティションの削除や作成を行ったり、パーティションのファイル システムやサイズを変更したり、そして処理前にそれらの詳細を見ることさえできます。
- 検出された各ハード ディスク (または他の USB キーのようなストレージ デバイス) の上部にタブがあります。上のスクリーンショットでは二つの利用可能なデバイス: sda と sdb があります。
- 他のすべての操作: はじめにパーティションをクリックします。次に表示、ファイル システムやマウント ポイントの選択、サイズ変更、削除を行います。上級者モード はパーティションにラベル (名前) を付けたりパーティションの種類を選択したりといった追加の項目を提供します。
- すべてを満足いくまで調整し終えるまで続けた後、準備ができれば完了をクリックします。



1. すべてをクリアの項目には注意してください、これは選択されたストレージ デバイス上のすべてのパーティションを削除する場合にのみ使用します。
2. /パーティションを暗号化したい場合、これとは別に /boot パーティションがなければなりません。/boot パーティションに対する暗号化は設定してはならず、設定した場合はお使いのシステムは起動不能になります。



- Mageia を UEFI システムにインストールしている場合、ESP (EFI システム パーティション) が存在し、/boot/EFI に正しくマウントされているかをチェックしてください。下の図 1 を参照してください。

- Mageia を Legacy/GPT システムにインストールしている場合、BIOS ブートパーティションが存在し、種類が正しいことをチェックしてください。下の図 2 を参照してください。

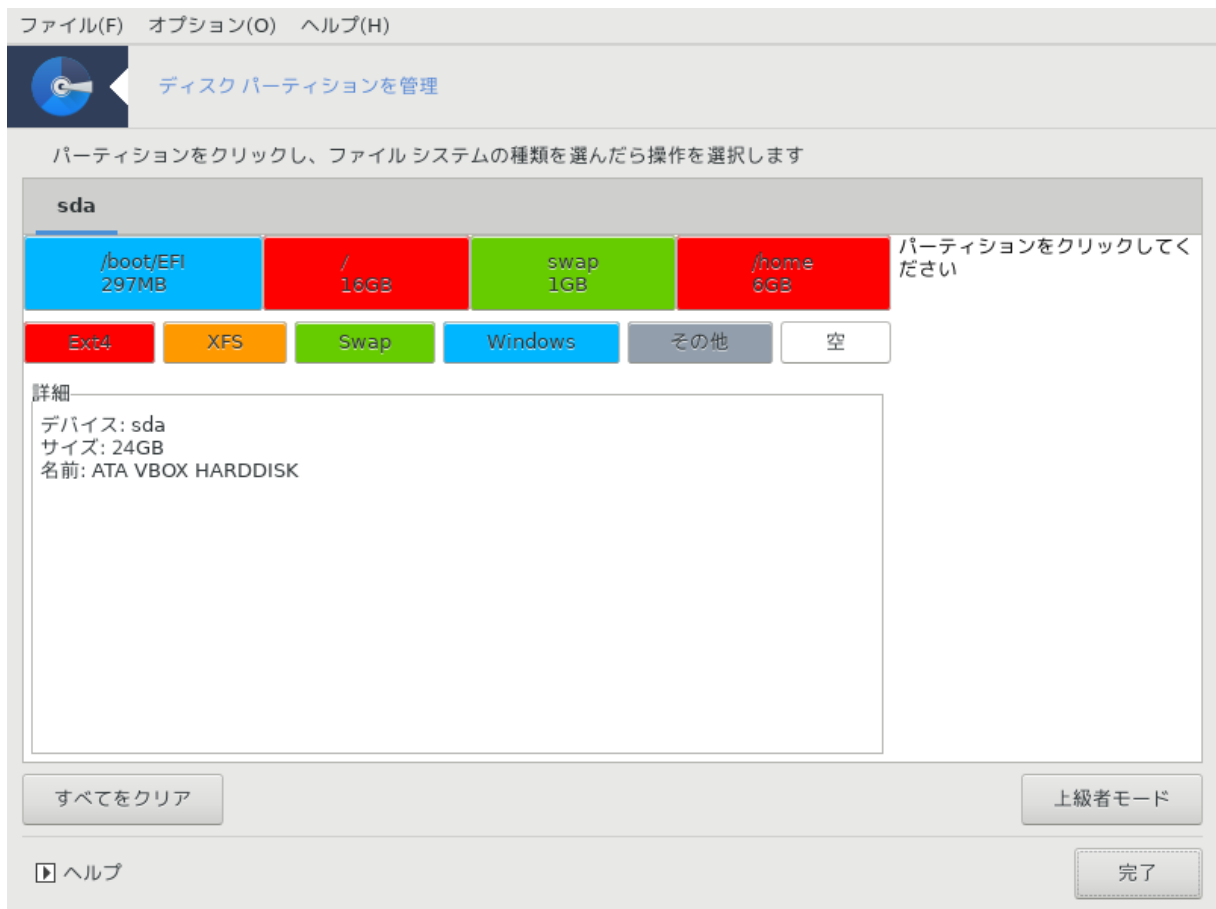


図3 EFI システム パーティション

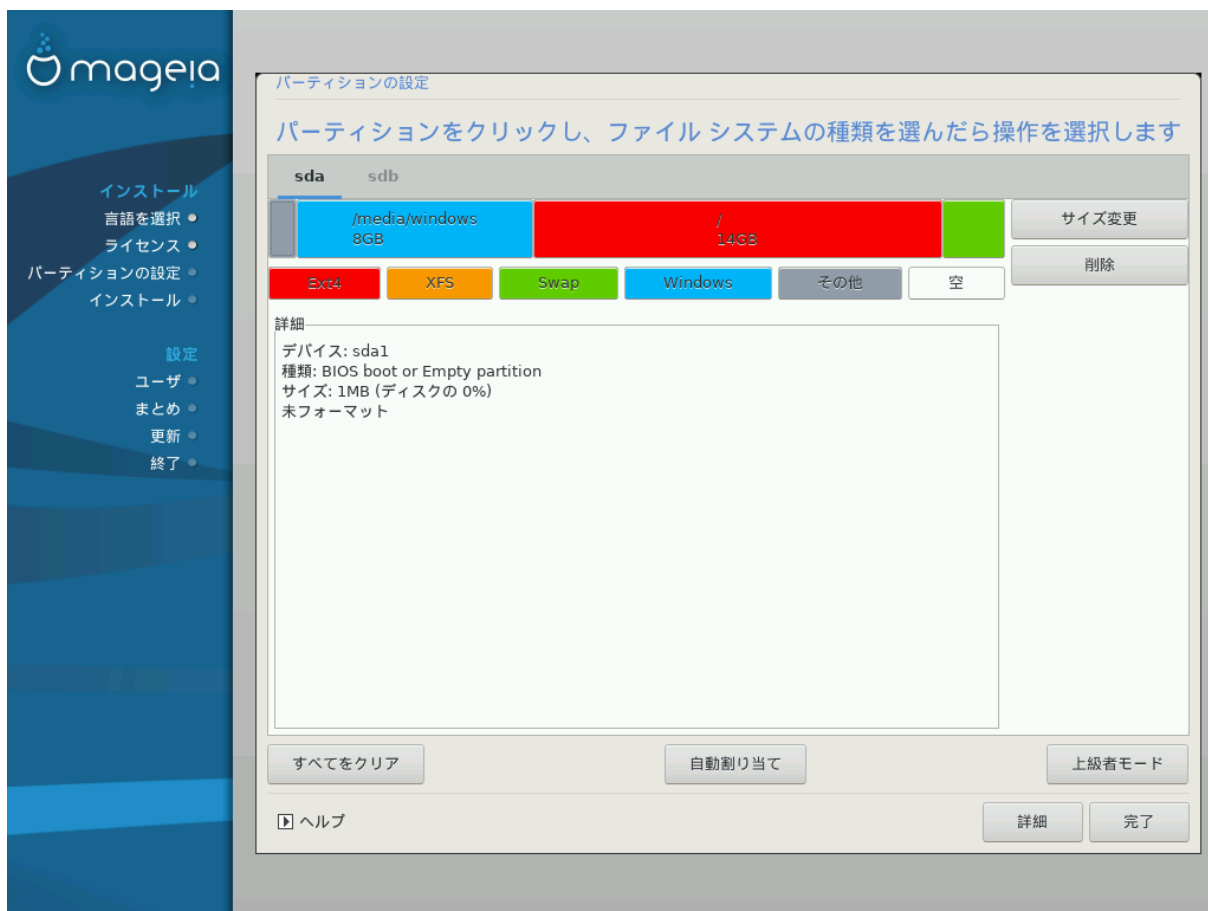
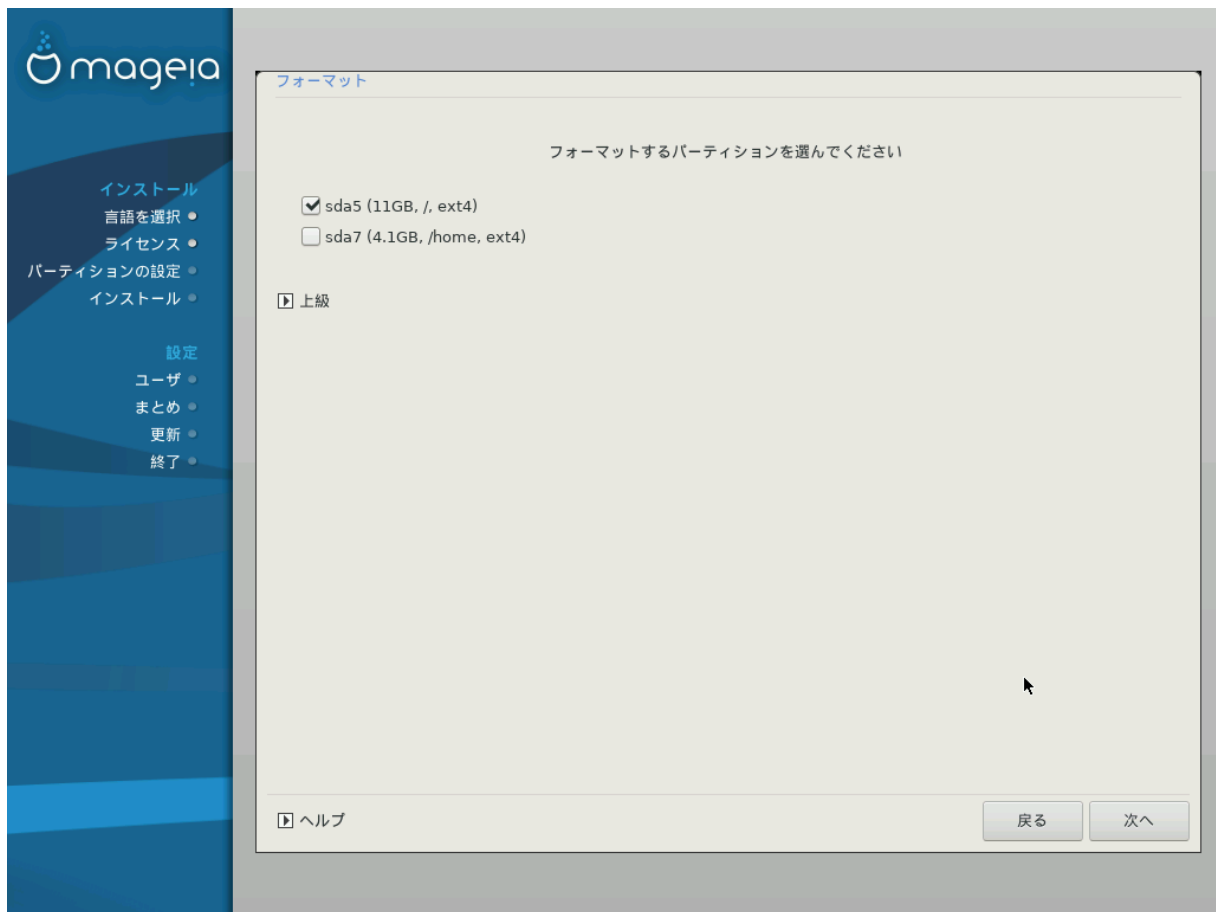


図4 BIOS ブートパーティション

3.6.5. フォーマット



ここではフォーマットしたいパーティションを選択できます。フォーマット指定をしていないパーティション内のデータは残ります。

通常、少なくとも DrakX が選択したパーティションはフォーマットする必要があります。

上級をクリックすると、いわゆる不良ブロックのチェックをしたいパーティションを選択できます。



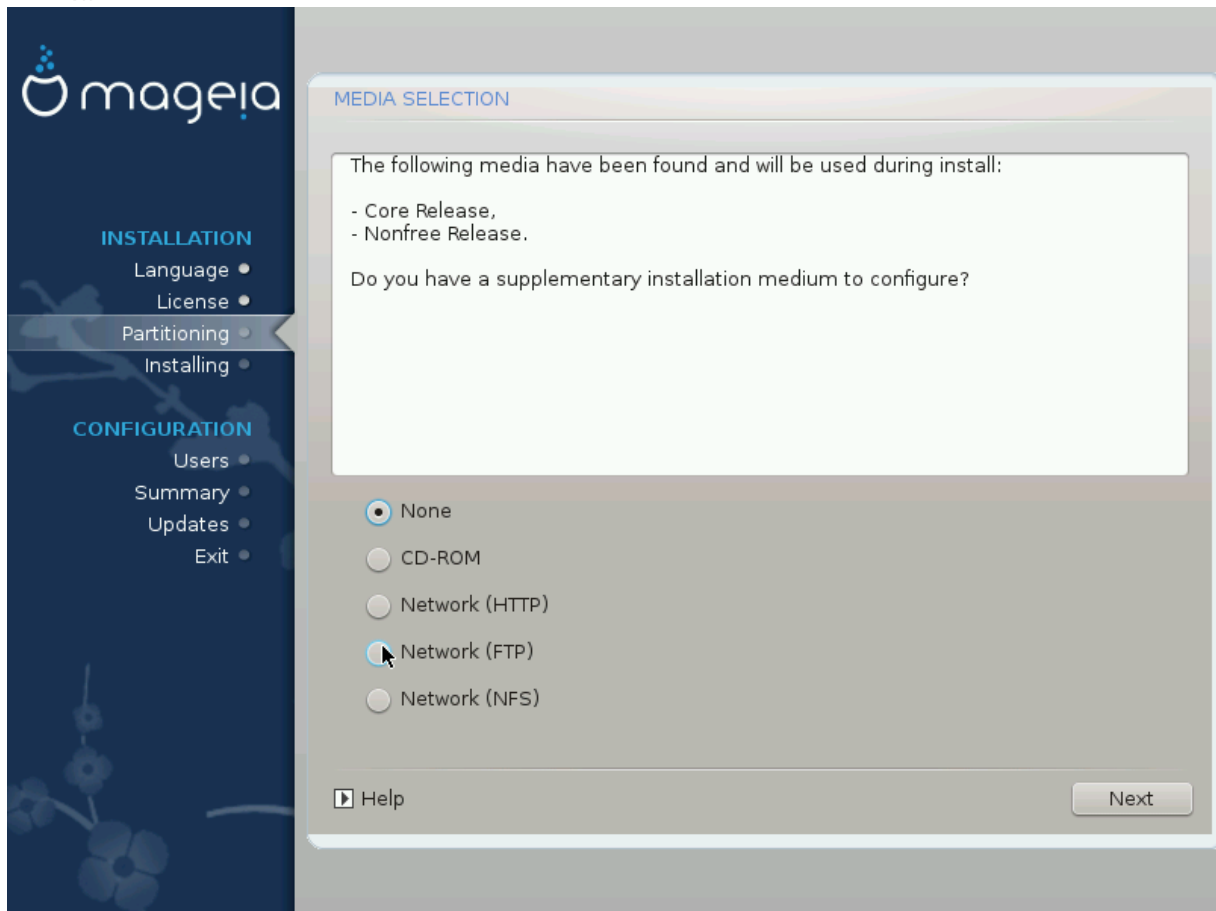
正しい選択をしたか自信がない場合、戻るをクリックして再度戻るをクリックし、次にカスタムをクリックするとメイン画面に戻ります。この画面ではパーティションの内容を見ることができます。

選択に自信があれば、次へをクリックして先に進みます。

3.7. ソフトウェア

3.7.1. メディアの選択

3.7.1.1. 追加のインストール メディア



この画面は認識済みのリポジトリの一覧を示しており、光学ディスクやリモートのソースのような他のパッケージ入手先を追加できます。この入手先の選択は、以降のステップにおける利用可能パッケージに影響します。

ネットワーク ソースでは、以下の 2 つのステップが続きます:

1. ネットワークが有効化されていなければ、選択および有効化を行います。
2. ミラーを選択するか、URL (一覧の一番上の項目) を指定します。ミラーを選択することで Mageia に管理されているすべてのリポジトリを選ぶことができ、Nonfree, Tainted といったリポジトリと、それぞれに更新を提供する Updates があります。URL を指定することで、特定のリポジトリやあなたの NFS インストールを指し示すことができます。



幾つかの 32 ビットのパッケージを含む可能性のある 64 ビット OS を更新する場合、この画面でいずれかのネットワーク プロトコルを選択してオンライン ミラーを追加するとよいでしょう。64 ビットの DVD iso には 64 ビットと noarch のパッケージしか含まれず、32 ビットのパッケージは更新できないでしょう。一方、オンライン ミラーを追加した後では、インストーラは必要な 32 ビットのパッケージを見つけることができるでしょう。

3.7.1.2. 利用可能なメディア



ここでは利用可能なリポジトリの一覧が表示されます。すべてのリポジトリが利用できるわけではなく、インストールに使用したメディアによります。リポジトリの選択は次のステップからどのパッケージが選択可能となるかに影響します。

- Core リポジトリはディストリビューションの基本部分を含んでいるため、無効化できません。
- Nonfree リポジトリは無料のパッケージを含んでおり、言い換えると Mageia はこれらを再頒布しているのですが、これらはクローズド ソースのソフトウェアを含んでいます (なので名前が Nonfree なのです)。例えばこのリポジトリは nVidia や AMD のグラフィックス カード用のプロプライエタリ ドライバや、色々な WiFi カードなどのファームウェアを含んでいます。
- Tainted リポジトリは自由なライセンスで公開されているパッケージを含んでいます。このリポジトリにパッケージを配置する主な基準は幾つかの国で特許や著作権を侵害する可能性があることで、例えば色々な音声/動画ファイルを再生するのに必要なマルチメディア コーデックです; これは商用のビデオ DVD などです。

3.7.2. デスクトップの選択

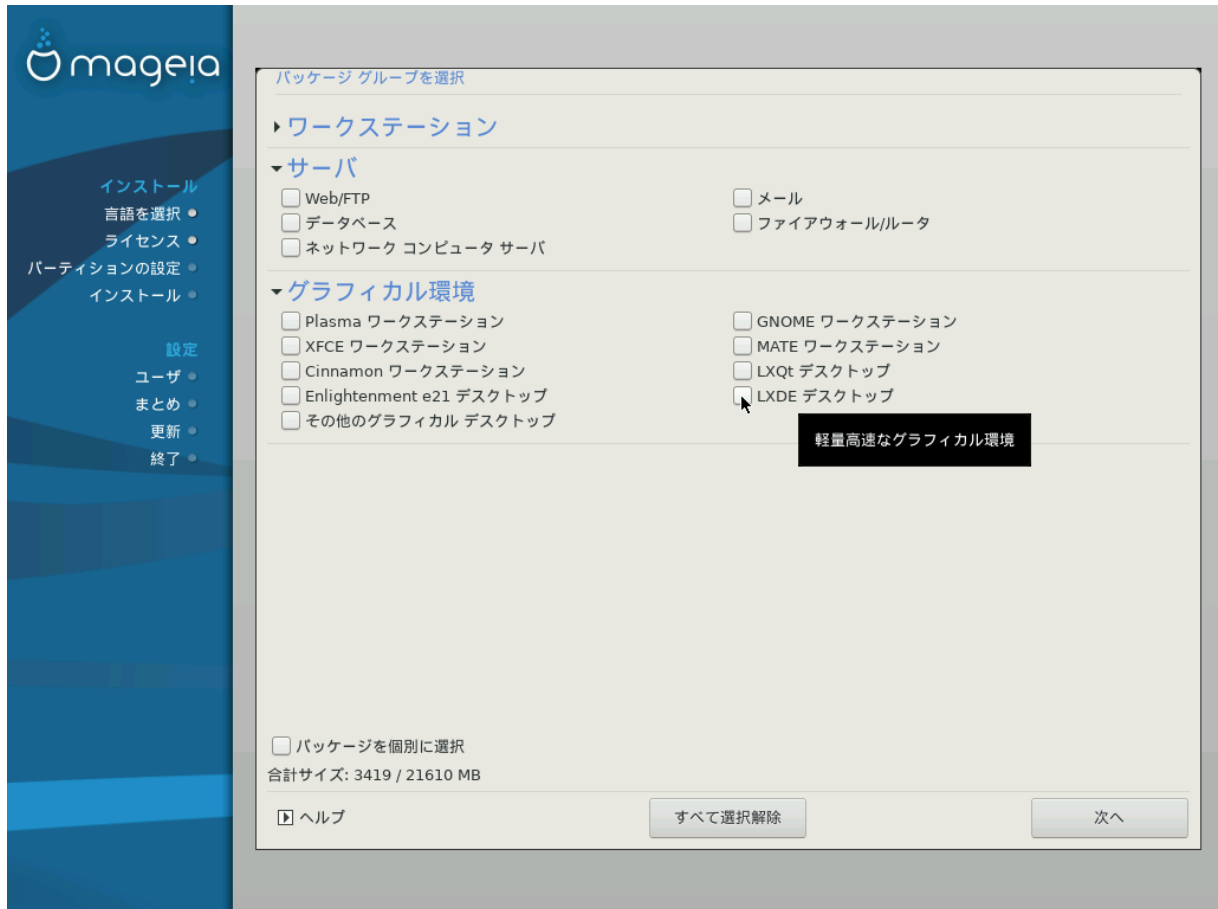
この選択内容によっては、関連する選択を行う別の画面が表示されます。

選択のステップの後、必要なパッケージのインストール中にスライド ショーが流れます。このスライド ショーは詳細ボタンを押すことで無効にできます。



- KDE Plasma か GNOME デスクトップ環境のどちらがお好みかを選択します。いずれも有用なアプリケーションとツールの一式が付属します。
- これらのいずれも使用しない（もしくは両方使用する）ことをお望みの場合、またはこれらのデスクトップ環境の既定のソフトウェアの選択内容を変更したい場合はカスタムを選択します。例えば LXDE デスクトップは前の二つよりも軽量で見た目は控えめとなり、インストールされる既定のパッケージも少なめです。

3.7.3. パッケージ グループの選択



パッケージはグループ別に整理されており、システムに必要なパッケージはとても選びやすくなっています。グループは明白で分かりやすいですが、マウスを各項目の上に乗せたときに表示されるツールチップにはより詳しい情報が表示されます。

- ワークステーション
- サーバ
- グラフィカル環境
- パッケージを個別に選択: 手動でパッケージの追加や削除をするためにこの項目を使用することができます

最小構成インストールを行う方法の説明 (X や IceWM を含まない場合と含む場合) については [Minimal Install](#) を参照してください。

3.7.4. 最小構成インストール

最小構成のインストールは Mageia をサーバや専門のワークステーションといった特定の用途を念頭に置いて使用することが意図されます。この選択はおそらくはパッケージを個別に選択と組み合わせるようになるでしょう。インストールを細かく調整するには、[Choose Package Tree](#) を参照してください。

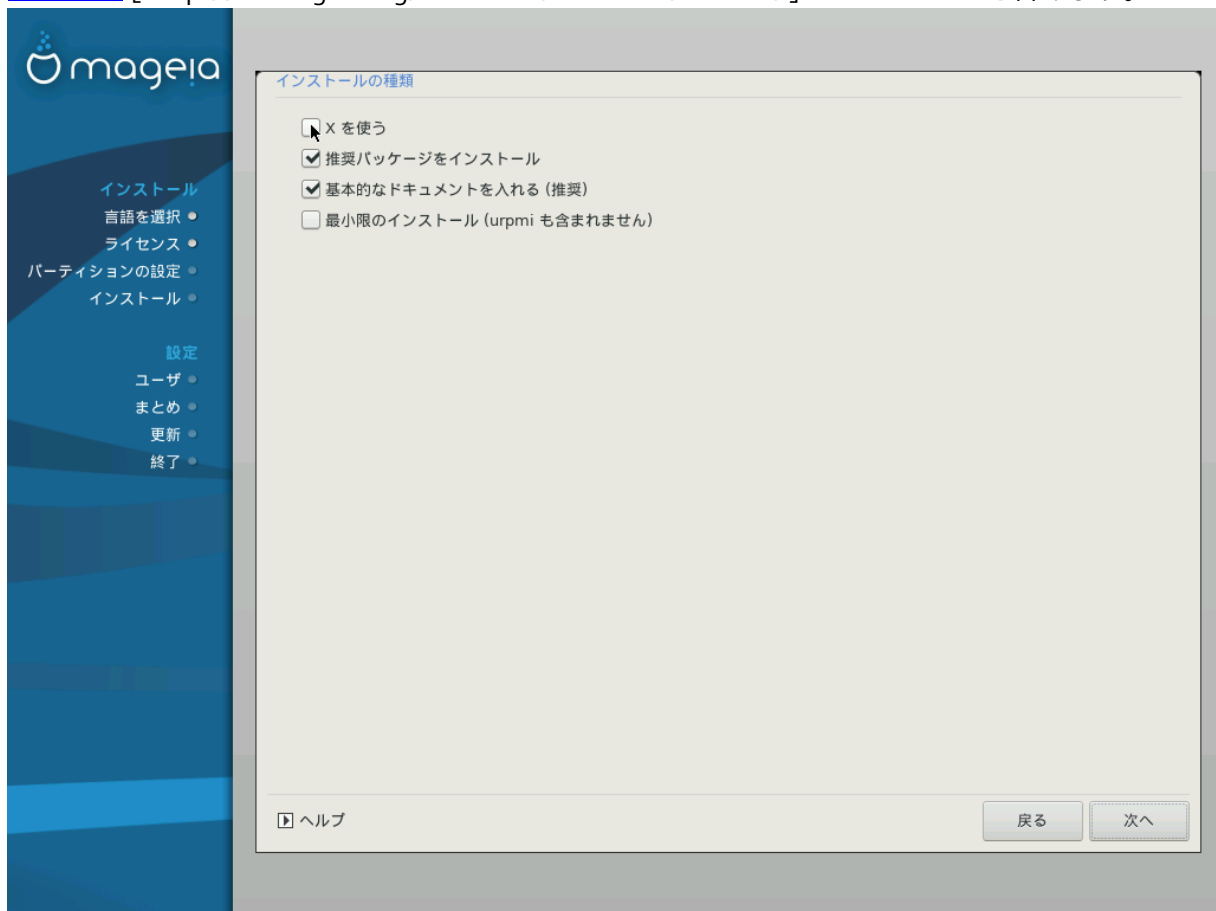
- パッケージ グループの選択画面ですべてを選択解除することで最小構成インストールを選択できます。[Choose Package Groups](#) をご覧ください。

お望みであれば、同画面のパッケージを個別に選択を追加でチェックすることができます。

- このインストール方法を選択した場合、関連する画面（下のスクリーンショットを参照）でドキュメントや「X」のような有用な追加パッケージを少しインストールすることになるでしょう。

X を使うを選択した場合、IceWM (軽量のデスクトップ環境) も含まれます。

基本的なドキュメントは「man」と「info」のページとして提供されます。これは [Linux Documentation Project](http://www.tldp.org/manpages/man.html) [http://www.tldp.org/manpages/man.html] の man ページと [GNU coreutils](http://www.gnu.org/software/coreutils/manual/) [http://www.gnu.org/software/coreutils/manual/] の info ページを含みます。



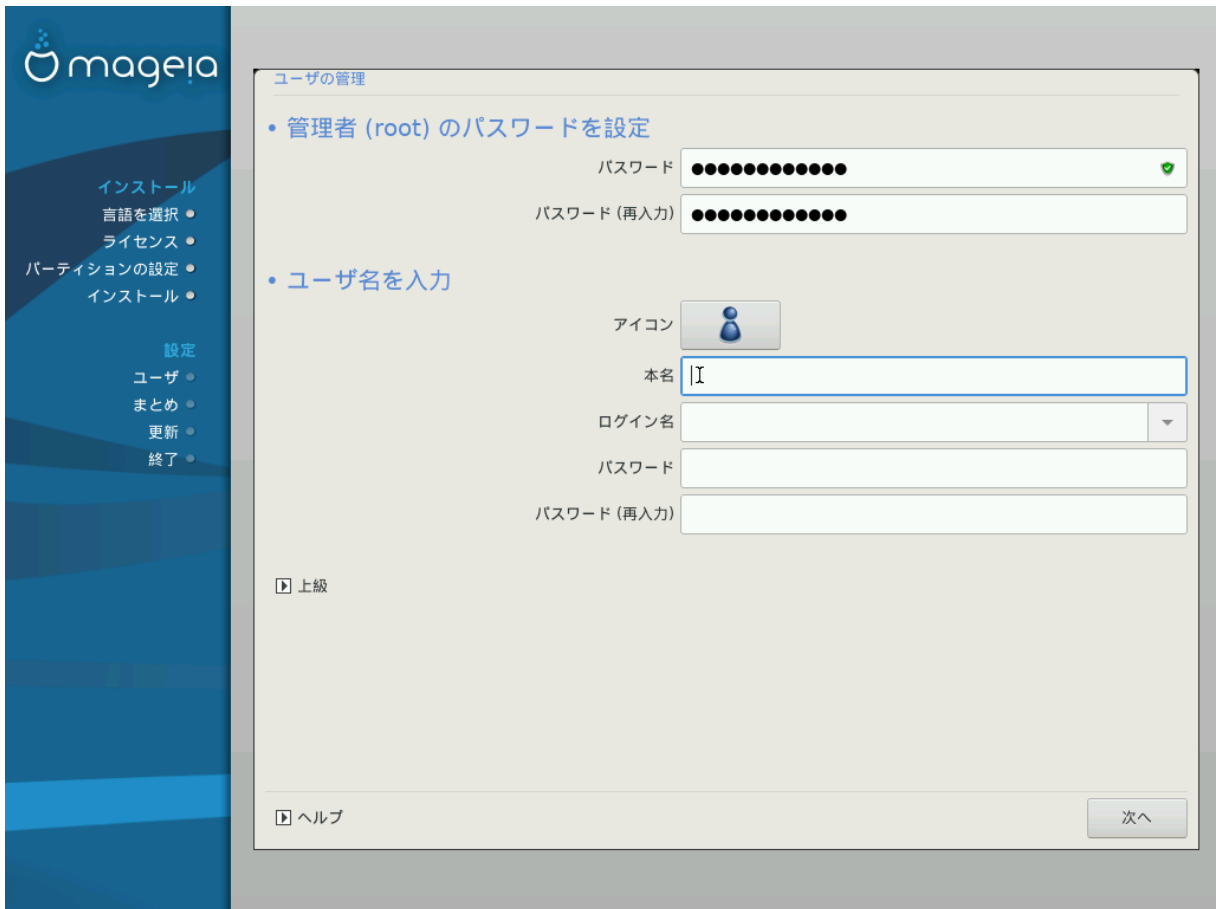
3.7.5. パッケージを個別に選択する



ここでインストールをカスタマイズするために追加でパッケージを追加したり削除したりすることができます。

選択を終えた後、ページ下部にあるフロッピーのアイコンをクリックすることでパッケージの選択情報を保存することができます (USB キーに保存することもできます)。別のシステムでこのファイルを使用して同一のパッケージをインストールすることができ、インストール時に同じボタンを押してこれを読み込みます。

3.8. ユーザの管理



3.8.1. 管理者 (root) のパスワードを設定する:

Mageia のインストールされたすべての環境でスーパーユーザ (管理者) のパスワードを設定することが望ましいです。これは通常、Linux の root パスワードと呼ばれます。一番上の入力欄にパスワードを入力すると、キーが押されるごとに盾がパスワードの強度によって赤色から黄色そして緑色へと変化します。緑色の盾は強固なパスワードを使用していることを示します。最初のパスワードをタイプ ミスしていないかをチェックするために、下の入力欄に同じパスワードを繰り返し入力する必要があります。



すべてのパスワードは大文字と小文字を区別し、パスワードの中でアルファベット (大文字と小文字)、数字、他の文字を混在させて使うのが最適です。

3.8.2. ユーザを入力する

ここでユーザを追加します。通常ユーザはスーパーユーザ (root) よりも権限が少ないですが、インターネットやオフィス アプリケーションを使用したりゲームで遊んだり普通のユーザが自分のコンピュータで何か他のことを行ったりするには十分です。

- アイコン

このユーザのアイコンを変更したい場合にこのボタンをクリックします。

- 本名

このテキスト ボックスにこのユーザの本名を入力します。

- ログイン名

このユーザのログイン名をここに入力します。入力しない場合、DrakX がユーザの本名をもとにログイン名を決定します。このログイン名は大文字と小文字を区別します。

- パスワード

ユーザのパスワードを入力します。テキスト ボックスの右端にはパスワードの強度を示す盾が表示されます。(注記も参照)

パスワード (再入力): ユーザのパスワードをこのテキスト ボックスに再度入力します。DrakX はあなたがパスワードをタイプミスしていないかをチェックします。



Mageia のインストール時に追加したユーザには、読み書きの両方で保護されたホームディレクトリ (umask=0027) が用意されます。

更に必要なユーザがあれば、インストールの設定 - まとめステップで追加できます。ユーザの管理を選択してください。

アクセス権はインストール後に変更することもできます。

3.8.3. ユーザの管理 (上級)

上級ボタンでは、追加中のユーザに対する追加の設定を編集できます。

- シェル: このドロップダウンリストでは前の画面で追加したユーザから使用できるシェルを変更できます。選択肢は Bash, Dash, Sh です。
- ユーザ ID: ここでは前の画面で追加したユーザのユーザ ID を設定できます。これはその目的がはっきりしない場合は空欄のままにしてください。
- グループ ID: グループ ID を設定できます。こちらも目的がはっきりしない場合は空欄のままにしてください。

3.9. グラフィカル設定

3.9.1. グラフィック カードとモニタを設定する



どのグラフィカル環境 (またはデスクトップ環境) をこの Mageia のインストールで選択したとしても、これらはすべて X Window System もしくは単に「X」と呼ばれるグラフィカル ユーザ インターフェイス システムに基づいています。そのため、KDE Plasma, GNOME, LXDE または他の任意のグラフィカル環境が良好に動作するためには、以下の「X」の設定は正しいものである必要があります。

何も表示されなかったり、細かい部分が間違っていると考えられたりする場合は、正しい設定を選択してください。

- Window Systemグラフィック カード

必要があれば、この展開可能な一覧から特定のカードを選択できます。[「X サーバを選択する \(グラフィック カードを設定する\)」](#)を参照してください。

- モニタ

お使いのモニタが対応していればプラグ アンド プレイを選択でき、そうでなければベンダもしくは一般の一覧からお使いのモニタを選択します。お使いのモニタの水平走査周波数と垂直走査周波数を手動で設定したいのであれば、[「モニタを選択する」](#)を参照してください。

- 解像度

お使いのモニタの解像度と色深度をここで設定できます。

- テスト

このテスト ボタンはインストール時に必ず現れるものではありません。ボタンがある場合は設定をテストすると設定が正しいかを訊かれます。はいと答えた場合、設定は保持されます。何も見えない場合、設定画面に戻ってテスト結果に満足するまですべての設定をやり直すことができます。テストの項目がない場合はあなたの設定が安全かを確認してください。

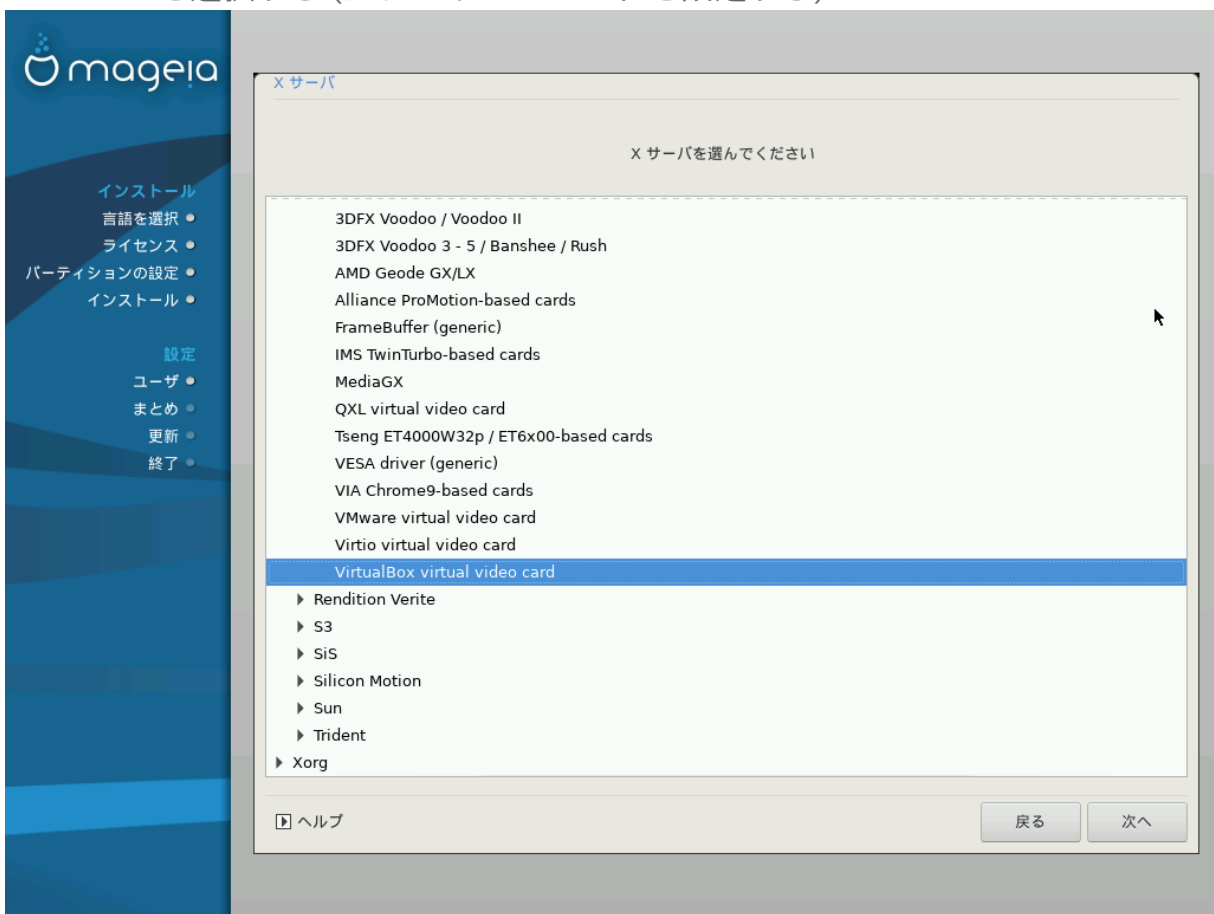
- オプション

ここで色々な項目を有効にしたり無効にしたりできます。



モニタの対応範囲外のリフレッシュ レートを選択すると、モニタを破損するおそれがあります。古い CRT ディスプレイがこれに当たります: 最近のモニタはサポートされない周波数を受け付けずに通常はスタンバイ モードに入ります。

3.9.2. X サーバを選択する (グラフィック カードを設定する)



DrakX は非常に広い範囲にわたるビデオ カードのデータベースを持っており、通常はお使いのビデオ デバイスを正しく識別します。

もしお使いのグラフィック カードをインストーラが正しく検出せず、かつあなたがお使いのカードを把握しているのであれば、以下によりツリーの一覧から選択することができます:

- ベンダ
- お使いのカードのメーカー
- カードのモデル

お使いのカードがベンダー一覧にない場合 (データベースに未登録か古いカード) は Xorg カテゴリから適したドライバが見つかるかもしれません。これは 40 を超える汎用的でオープン ソースなビデオ カード ドライバを提供します。それでもお使いのカード向けの特定のドライバが見つからない場合は基本的な機能を提供する VESA ドライバを使用するという選択肢があります。



非互換なドライバを選択した場合はコマンド ライン インターフェースしか利用できないという点に留意してください。

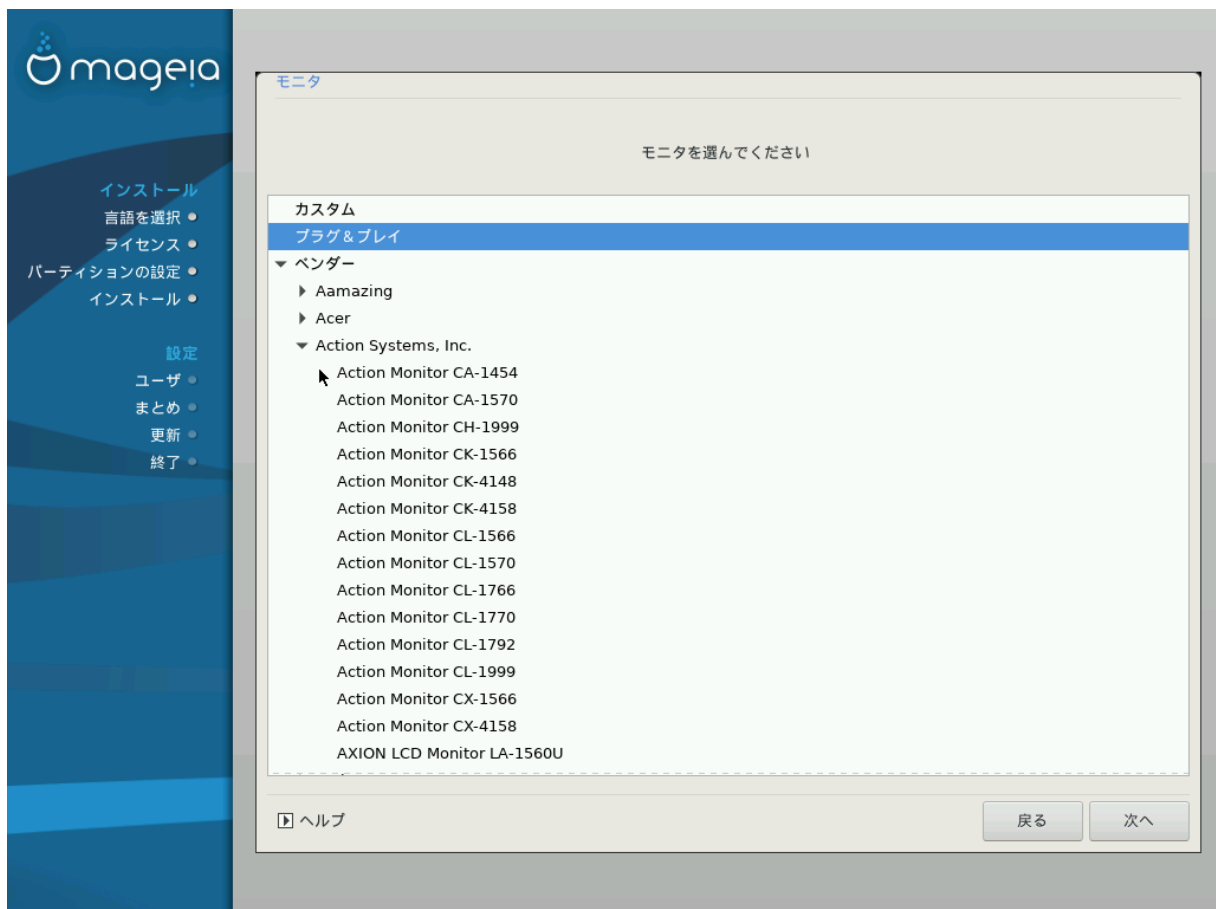
幾つかのビデオ カードのメーカーは Nonfree リポジトリでのみ利用可能な Linux ドライバを提供しており、場合によってはメーカーの Web サイトからしか入手できません。Nonfree リポジトリにアクセスするには、明示的に有効にする必要があります。以前にこれを有効にしていない場合、最初の再起動後にこれを行うのがよいでしょう。

3.9.3. モニタを選択する

DrakX は非常に広い範囲にわたるモニタのデータベースを持っており、通常はお使いのモニタを正しく識別します。



異なる特性のモニタを選択するとお使いのモニタやビデオ ハードウェアに損害を与える可能性があります。何をしているのかわかっている場合以外はいじらないでください。不明な点があれば、モニタの説明書をご覧ください。



カスタム この項目では垂直走査周波数と水平走査周波数という二つの重要なパラメータの設定が行えます。垂直走査周波数は画面の更新頻度を決定し、水平走査周波数は走査線が表示される速度となります。

お使いのモニタの許容範囲を超えた周波数になるモニタの種類を指定しないことは非常に重要です：モニタを破損する可能性があります。不明な点があれば、控えめな設定を選択した上でモニタの説明書をご覧ください。

プラグ アンド プレイ これは既定の選択肢で、自動的にモニタのデータベースからモニタの種類のを試みます。

ベンダ もしインストーラがお使いのモニタを正しく検出せず、かつあなたがお使いのモニタを把握しているのであれば、以下を選択することでツリーの一覧から選択することができます：

- メーカー
- モニタのモデル

一 このグループを選択すると 1024x768 @ 60Hz のような約 30 のディスプレイ設定が一覧表示され、ラップトップで使用されるフラット パネル ディスプレイも含まれます。これはお使いのビデオ ハードウェアが自動的に決定できずに VESA カード ドライバを用いる必要がある場合にしばしば有用なモニタ選択グループです。繰り返しますが、設定は控えめにするのが賢明でしょう。

3.10. ブート ロード

3.10.1. Grub2

Legacy MBR/GPT システム上の Grub2

- GRUB2 (グラフィカル メニューありとなし) は Legacy/MBR または Legacy/GPT のシステムで排他的に用いられます。
- 既定では、新しいブート ロードは 第一ハード ディスクの MBR (Master Boot Record) または BIOS ブート パーティションに書き込まれます。

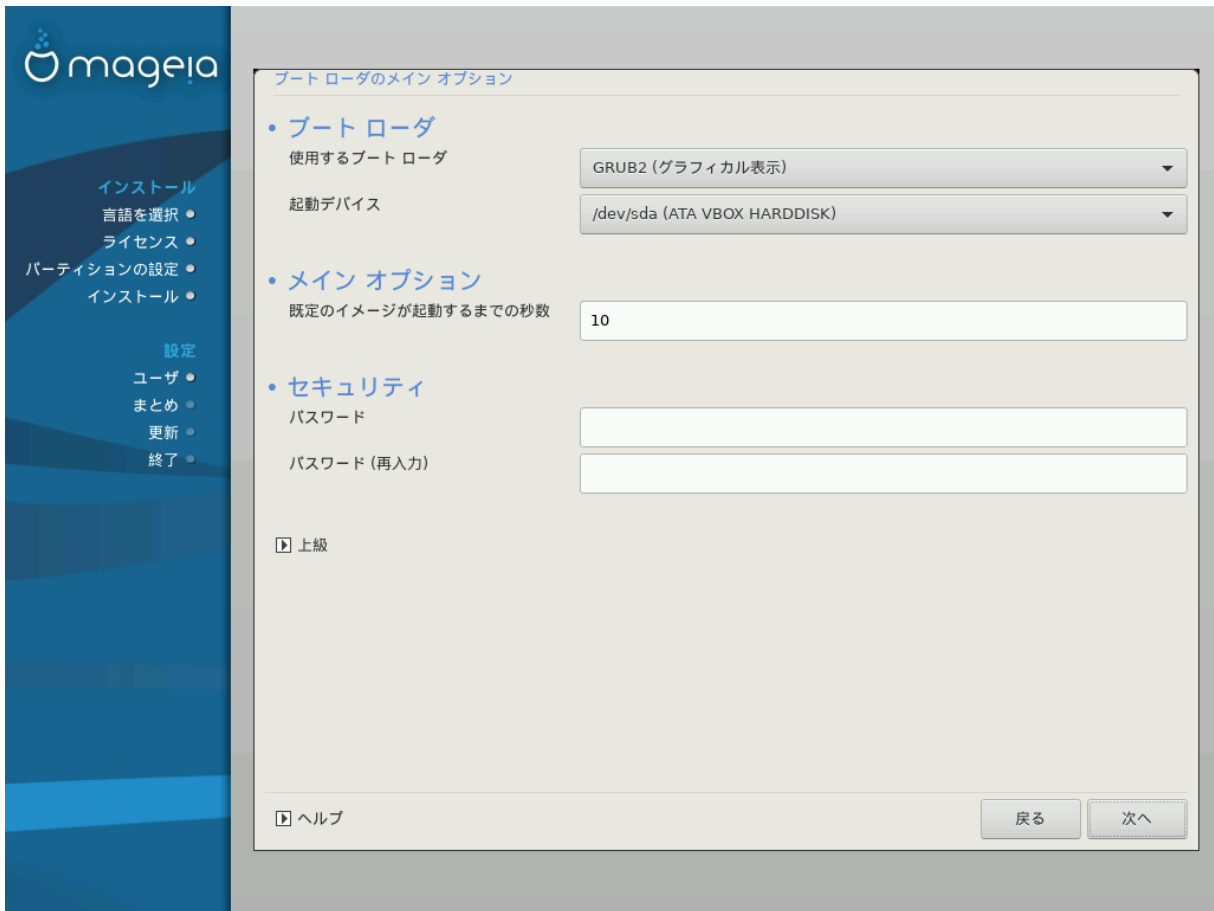
UEFI システム上の Grub2-efi

- GRUB2-efi は UEFI システム用のブート ロードとして排他的に用いられます。
- 既定では、新しいブート ロード (Grub2-efi) は ESP (EFI System Partition) に書き込まれます。

既に UEFI に基づくオペレーティング システムがお使いのコンピュータにインストールされている場合 (例えば Windows 8)、Mageia インストーラは Windows によって作成された既存の ESP を検出して grub2-efi を追加します。ESP は複数持つこともできますが、オペレーティング システムの数が幾つあっても一つしか必要ありません。

3.10.2. ブート ロードの設定

3.10.2.1. ブート ロードの主な設定



- 使用するブート ロード

この機能は Legacy MBR/BIOS システムでのみ利用可能です。UEFI システムのユーザはこの設定をここで見ることはありません。

- 起動デバイス

これは何をしているのか本当に分かっているのでなければ変更しないでください。

- 既定のイメージが起動するまでの秒数

このテキスト ボックスでは既定のオペレーティング システムが開始する前に空ける秒数を設定できます。

- セキュリティ

ブート ロード用のパスワードを設定できるようにします。これはブート時に項目を選択したり設定を変更したりする際にユーザ名とパスワードを訊かれることを意味します。これは任意で、ほとんどの人々は使う必要がないでしょう。ユーザ名は root で、パスワードは後でここで決めたものです。

- パスワード

ブート ロードのパスワードを決めます (任意)

- パスワード (再入力)

パスワードを再入力し、DrakX は上のパスワードと一致するかをチェックします。

上級

- ACPI を有効にする

ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) は電源管理の標準です。これは使用されていないデバイスを停止することでエネルギーを節約できます。チェックを外すと役に立つ可能性があり、例えば、お使いのコンピュータが ACPI をサポートしていないか、ACPI の実装が幾つかの問題を引き起こすとお考えの場合です (例えばランダムに再起動が起こったりシステムが固まったりする場合)。

- SMP を有効にする

この項目はマルチ コア プロセッサで対称型マルチ プロセッシングを有効化 / 無効化します。

- APIC を有効にする

これを有効にすると Advanced Programmable Interrupt Controller をオペレーティング システムから利用できるようになります。APIC デバイスはより複雑な優先度モデルや高度な IRQ (割り込み要求) の管理を可能にします。

- ローカル APIC を有効にする

ここでローカル APIC を設定でき、これは SMP システムにおいて特定のプロセッサに対するすべての外部割り込みを管理します。

3.10.2.2. ブート ロードの設定



- 既定

開始する既定のオペレーティング システムです。

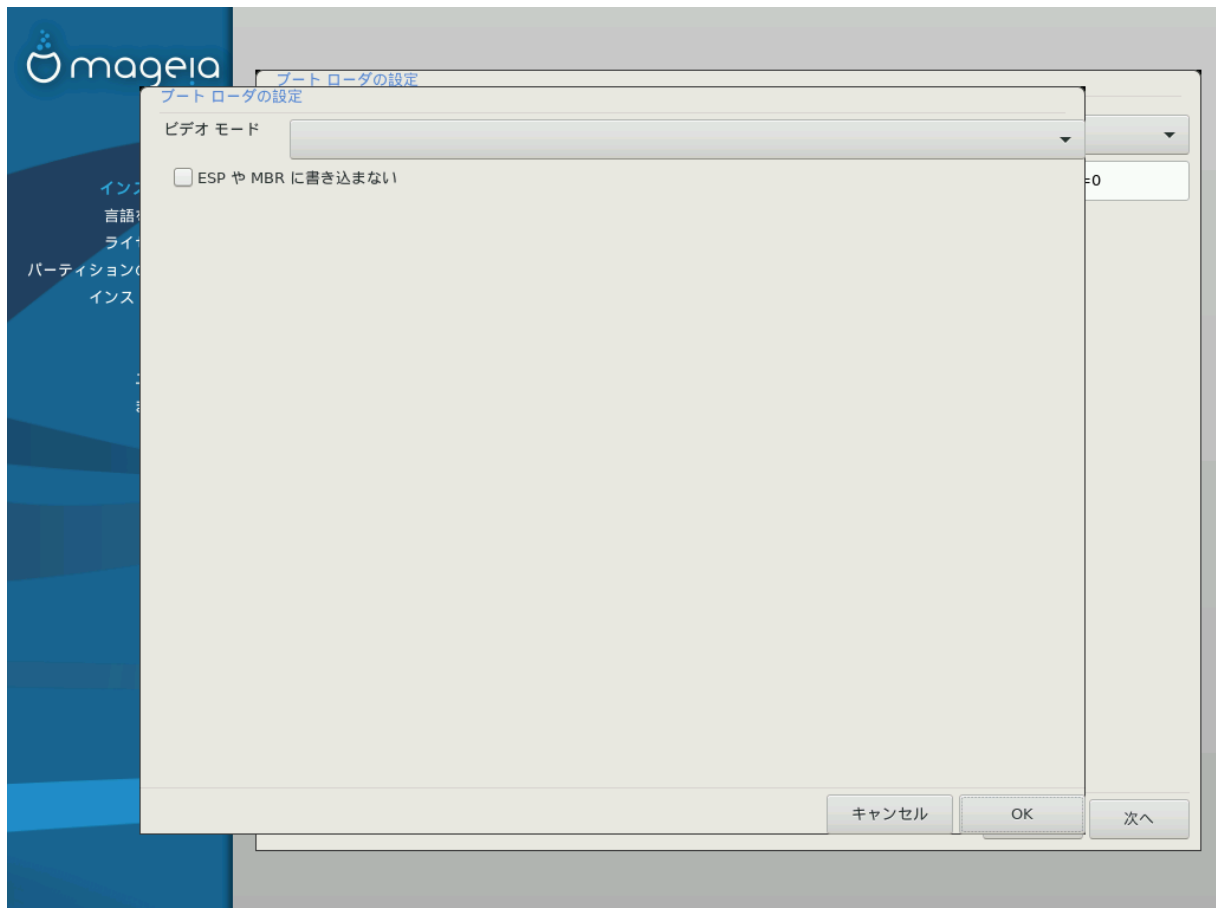
- 追加文字列

この項目は起動の際にカーネルに情報を渡したり、あなたにより多くの情報を渡すようにカーネルに伝えたりします。

- 他の OS がないか調べる

既に他のオペレーティング システムがインストールされている場合、Mageia はこれらを新しい Mageia のブート メニューに追加しようとしています。この動作を望まない場合、他の OS がないか調べるための選択を外します。

上級

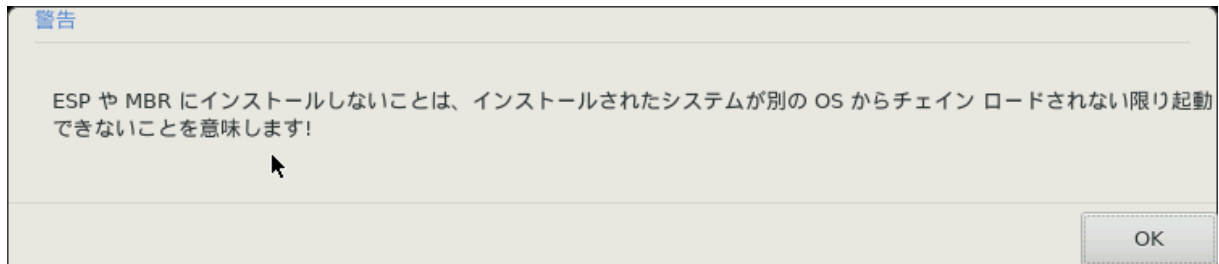


- ビデオ モード

これはブート メニューで用いられる画面サイズと色深度を設定します。下向きの三角形をクリックするとサイズと色深度の他の項目が表示されます。

- ESP や MBR に書き込まない

Mageia をブート可能にせずに他の OS からチェーン ロードしたい場合にこれを選択します。ブート ロードがないことが警告されます。その結果どうなるかを確かに理解しており、かつ続行したいのであれば Ok をクリックします。



3.10.3. その他のオプション

3.10.3.1. 既存のブート ロードダを使用する

Mageia を既存のブート ロードダに追加する正確な手順はこのドキュメントで扱う範囲外ですが、これはほとんどの場合において Mageia の検出とその起動のためのブート ロードダのメニュー エントリの追加を自動的に行ってブート ロードダをインストールする適切なプログラムを実行することになるでしょう。関連するオペレーティング システムのドキュメントを参照してください。

3.10.3.2. ブート ロードダなしのインストール

ブート ロードダなしで Mageia をインストールすることを選ぶことは可能です (セクション 2.1 上級を参照)が、これはあなたが何をしているかを完全に分かっているでなければ推奨されず、何らかの形のブート ロードダがない限り、お使いのオペレーティング システムは開始できません。

3.10.3.3. ブート メニュー項目を追加もしくは変更する

これを行うためには、`/boot/grub2/custom.cfg` を手動で編集する必要があります。もしくはソフトウェア `grub-customizer` (Mageia のリポジトリで利用できます) を代わりに使用します。

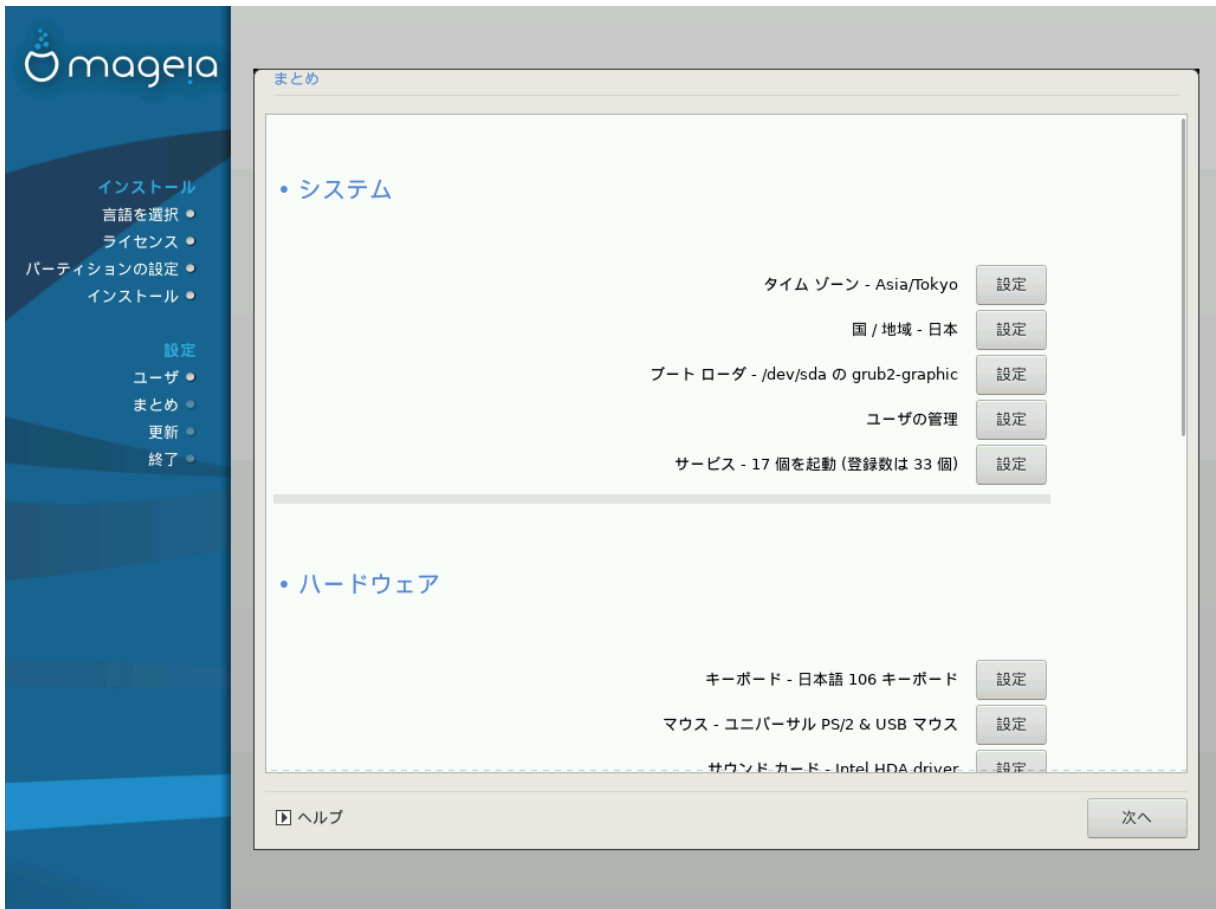


詳しい情報は、以下を参照してください:

[efi_and_Mageia](https://wiki.mageia.org/en/Grub2-efi_and_Mageia)

https://wiki.mageia.org/en/Grub2-efi_and_Mageia

3.11. 設定の概要



DrakX はあなたの行った選択と検出されたハードウェアによってお使いのシステムの設定を提案します。その設定はここで確認することができ、これらは設定を押すと変更することができます。



原則として、既定の設定を受け入れることが推奨されますが、以下の場合は除きます:

- 既定の設定において既知の問題がある場合
- 既定の設定を既に試しているが失敗する場合
- 以下の詳細なセクションで触れられている何か他の要因が問題となる場合

3.11.1. システムのパラメータ

- タイムゾーン

DrakX は指定された言語からタイムゾーンを選択します。必要があれば変更することができます。[Configure Timezone](#) も参照してください。

- 国 / 地域

選択されている国にあなたがいない場合、この設定を修正することは非常に重要です。[Select Country](#) を参照してください。

- ブートローダ

ブートローダ設定に対する DrakX による提案

GRUB2 の設定方法をご存知でなければ、何も変更しないでください。詳しい情報は、[Bootloader](#) を参照してください。

- ユーザの管理

ここでユーザを追加することができます。各ユーザには自分の /home ディレクトリが用意されます。

- サービス

システム サービスとはバックグラウンドで動作するプログラム（デーモン）のことです。このツールでは特定のプロセスを有効化もしくは無効化できます。

ここにあるどれを変更するとしても、その前に慎重に確認してください - 間違えるとコンピュータが正しく動作しなくなるかもしれません。詳しい情報は、[Configure Services](#) を参照してください。

3.11.2. ハードウェアのパラメータ

- キーボード

あなたの場所, 言語, キーボード種別に合わせてキーボード配列の設定を行います。



キーボード配列が間違っているのに気づいてこれを変更したい場合、あなたのパスワードも変更されることになるということをご留意ください。

- マウス

ここで他のポインティング デバイス, タブレット, トラック ボールなどを追加したり設定したりできます。

- サウンド カード

インストーラは既定のドライバが利用可能な場合にこれを使用します。

お使いのサウンド カード向けの既定のドライバがなければ、代替として使用できるドライバがあるかもしれません。これに該当し、インストーラが最適な選択をしなかったとお考えの場合、上級をクリックしてドライバを手動で指定することができます。

- グラフィカル インターフェース

このセクションではお使いのグラフィック カードとディスプレイの設定が可能です。詳しい情報は、[「グラフィック カードとモニタを設定する」](#) を参照してください。



3.11.3. ネットワークとインターネットのパラメータ

• ネットワーク

ここであなたのネットワークを設定できますが、非フリーなドライバを使用するネットワークカードに対しては Nonfree のメディア リポジトリをまだ有効にしていない場合は再起動後に Mageia コントロール センターを用いて設定するとよいでしょう。



ネットワーク カードを追加する際には、忘れずに同様にファイアウォールを設定してインターフェースを監視するようにしてください。

• プロキシ

プロキシ サーバはあなたのコンピュータとより広いインターネットとの間の仲介者のように振る舞います。このセクションではコンピュータでプロキシ サービスを利用するように設定することができます。

ここで入力する必要のあるパラメータを得るためにシステム管理者に相談する必要があるかもしれません。

3.11.4. セキュリティ

• セキュリティ レベル

コンピュータのセキュリティ レベルで、ほとんどの場合において既定の設定 (Standard) が一般的な用途で適切です。最もあなたの用途に適したものを選択してください。

- ファイアウォール

ファイアウォールはお使いのコンピュータで許可するネットワーク接続の管理を可能にします。安全でセキュアな既定値は外部からの接続をすべて拒否する動作です。これは外部に接続したりお使いのコンピュータを普通に使用したりすることを妨げるものではありません。

インターネットは、システムを探ったり攻撃したりする試みが絶え間なく行われている高リスクなネットワークであるということを知ってください。ICMP (ping で使われる) のような一見「安全」な接続でさえ悪意のある人によりデータを盗み出すためにデータ チャンネルの変換に用いられてきました。

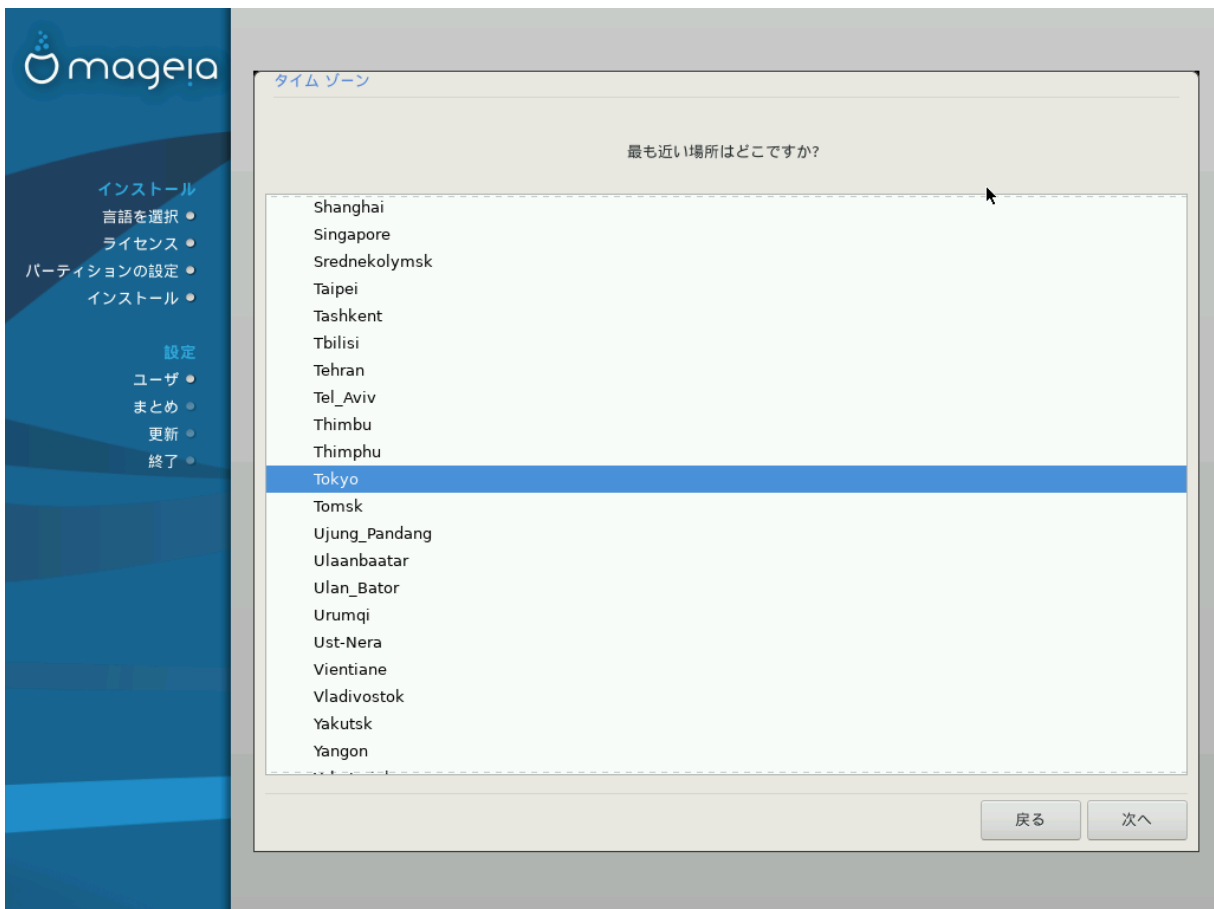
詳しい情報は、[Firewall](#) を参照してください。



すべてを許可すること (ファイアウォールなし) はとても危険になりうるということをご留意ください。

3.12. ロケール

3.12.1. タイムゾーンを設定する



- あなたのいる国またはあなたに近い同一タイムゾーン内の都市を選択することでタイムゾーンを選択します。

次の画面では、お使いのハードウェア時計をローカル時間と (UTC としても知られる) GMT のどちらに設定するかを選択できます。



コンピュータに複数のオペレーティング システムがある場合、すべてをローカル時間に設定するか、もしくはすべてが UTC/GMT になるようにしてください。

3.12.2. 国や地域を選択する



- 国や地域を選択します。これは通貨や無線の規制ドメインのような様々な設定に対して重要です。国の設定を間違えると無線ネットワークが使えなくなる可能性があります。
- あなたのいる国が一覧にない場合、他の国をクリックしてそこで国や地域を選択します。



あなたのいる国が他の国の一覧にしかない場合、OK をクリックした後で主な一覧の中から国が選択されたように見えるかもしれません。これは無視してください、DrakX はあなたの実際の選択を適用します。

3.12.2.1. 入力メソッド

他の国画面では入力メソッドも選択できます (一覧の下)。入力メソッドは複数言語 (中国語, 日本語, 韓国語など) の文字の入力を可能にします。IBus は既定の入力メソッドで、このユーザは手動で設定する必要はありません。他の入力メソッド (SCIM, GCIN, HIME など) も同様の機能を提供し、パッケージ選択の前に HTTP/FTP のメディアを追加した場合にインストールできます。



入力メソッドの設定をインストール時にし損ねた場合、インストール済みのシステムをブート後にコンピュータを設定 → システムを通じて、または root として locale-drake を実行することでこれを行えます。

3.13. サービスを設定する

ここでシステムのブート時に開始するサービスを選択することができます。

- グループの前にある三角形をクリックするとグループに関連したすべてのサービスが展開されます。DrakX が選択した設定は通常は適しています。
- サービスを選択して強調表示すると、下部の情報ボックスにこれについての幾らかの情報が表示されます。

何をしているのかよく分かっている場合にだけ変更を行ってください。

3.14. マウスを選択する

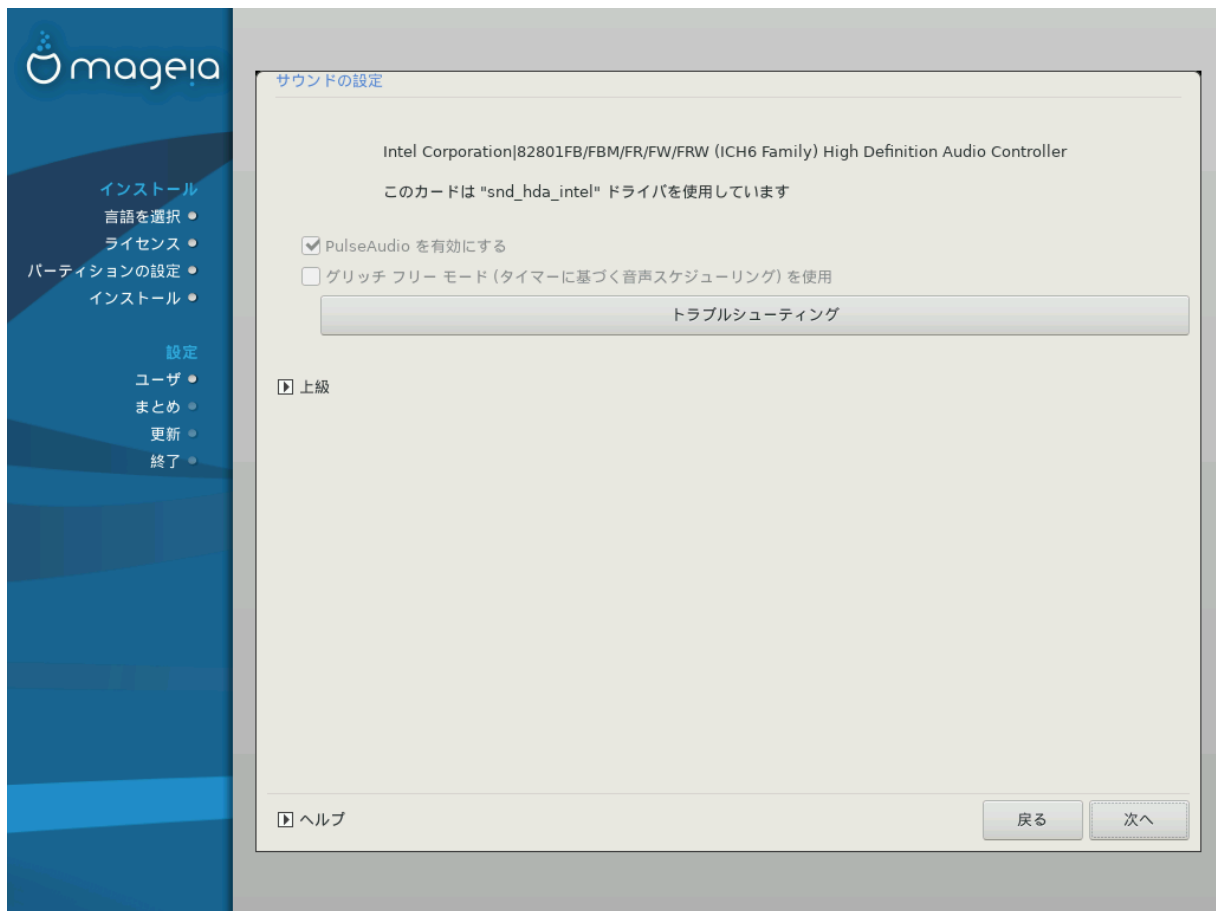


お使いのマウスの反応に満足していない場合、ここで異なるマウスを選択できます。

通常は、ユニバーサル → PS/2 & USB マウス がよい選択です。

ユニバーサル → evdev の使用を強制 を選択すると、六つ以上のボタンのあるマウスで動作しないボタンを設定します。

3.15. サウンドの設定



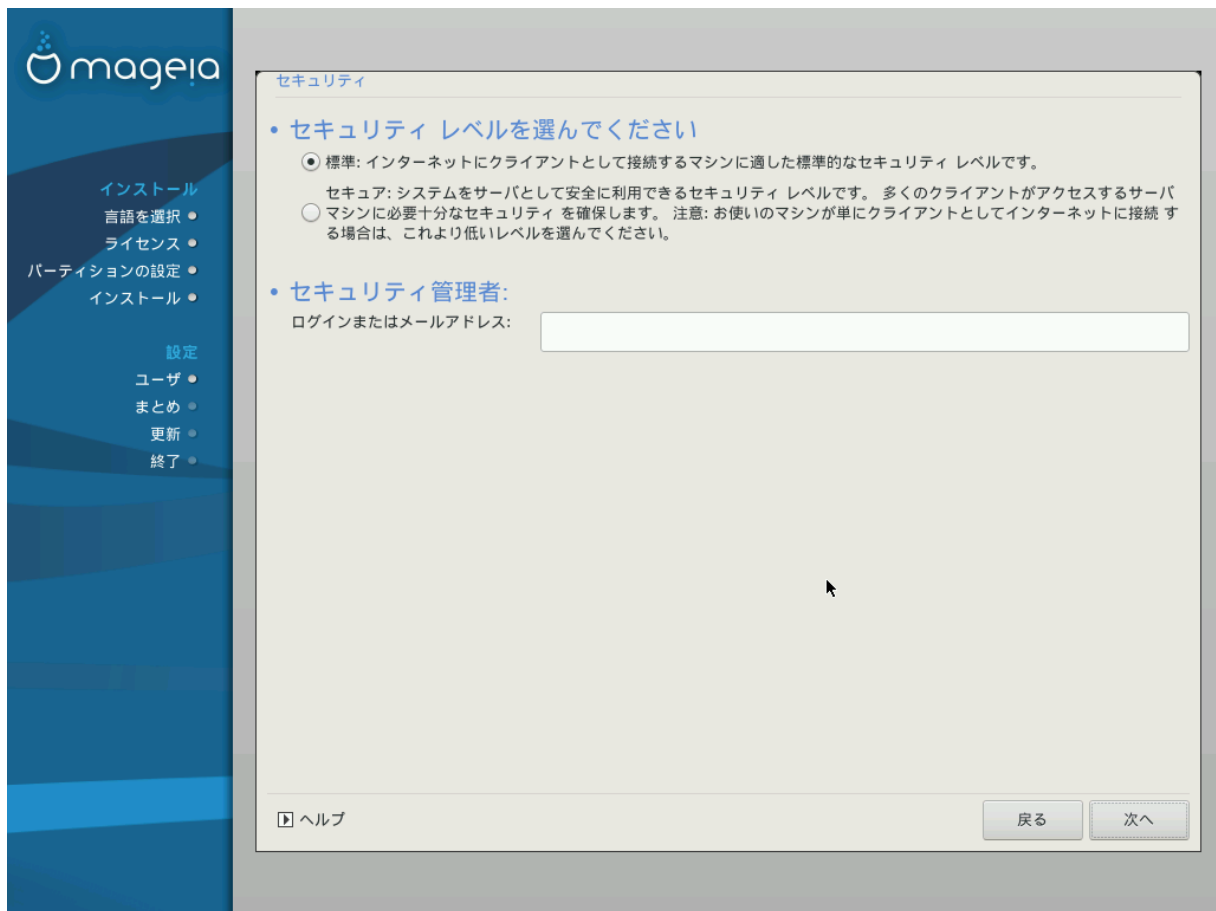
この画面はインストーラが選択したサウンド カード ドライバの詳細を表示し、このドライバは問題なく動作するはずです。

しかし、インストールの後で何か問題に出くわした場合は、`draksound` を実行するか、このツールを Mageia コントロール センター → ハードウェア → サウンドの設定 から開始してください。次に、`draksound` またはサウンド設定の画面で、トラブルシューティングを押して問題解決方法についての有用なアドバイスを探してください。

3.15.1. 上級

お使いのサウンド カード向けの既定のドライバがなければ、代替として使用できるドライバがあるかもしれません。これに該当し、インストーラが最適な選択をしなかったとお考えの場合、上級をクリックしてドライバを手動で指定することができます。

3.16. セキュリティ レベル



お望みのセキュリティ レベルを選択してください

Standard は既定かつ標準的なユーザ向けに推奨される設定です。

Secure の設定は高度に保護されたシステムを構築します - 例えばシステムが公開サーバとして使用される場合です。

セキュリティ管理者

この項目ではシステム管理者への通知が必要な状況を検出したときにセキュリティ警告メッセージを送信するメール アドレスを設定できます。

<user>@localhost を入力するのが好ましく、かつ簡単な選択です。<user> はこれらのメッセージを受け取るユーザのログイン名です。



システムはそのようなメッセージを "通常の" SMTP メールではなく Unix メールプールメッセージとして送信します: そのため、このユーザはそのようなメールを受け取るように設定されていなければなりません!

Mageia コントロール センターのセキュリティ セクション内でセキュリティ設定をいつでも調整できます。

3.17. ファイアウォール

このセクションでは幾つかのシンプルなファイアウォール ルールを設定可能にします: これらはインターネットからどの種類のメッセージを対象システムを通して受け入れるかを決定します。これは、その後で、システム上の対応するサービスをインターネットからアクセス可能にします。

既定の設定 (どのボタンもチェックされていない状態) では、システムのどのサービスもネットワークからアクセスできません。すべて (ファイアウォールなし) はマシンのすべてのサービスを有効にします - 完全に無防備なシステムを作るだけなのでインストーラの中では大きな意味のない選択肢です。これの本来の用途は Mageia コントロール センター (同一の GUI レイアウトを使用しています) の中でテストやデバッグの目的で一時的にファイアウォールのすべてのルールを無効化することです。

他のすべての項目は多かれ少なかれ分かりやすいものです。例えば、マシン上のプリンタをネットワークからアクセス可能にしたい場合は CUPS サーバを有効にします。

上級

上級の項目はウィンドウを開き、そこでは「対」の一覧 (空白区切り) を入力することで複数のサービスを有効にできます

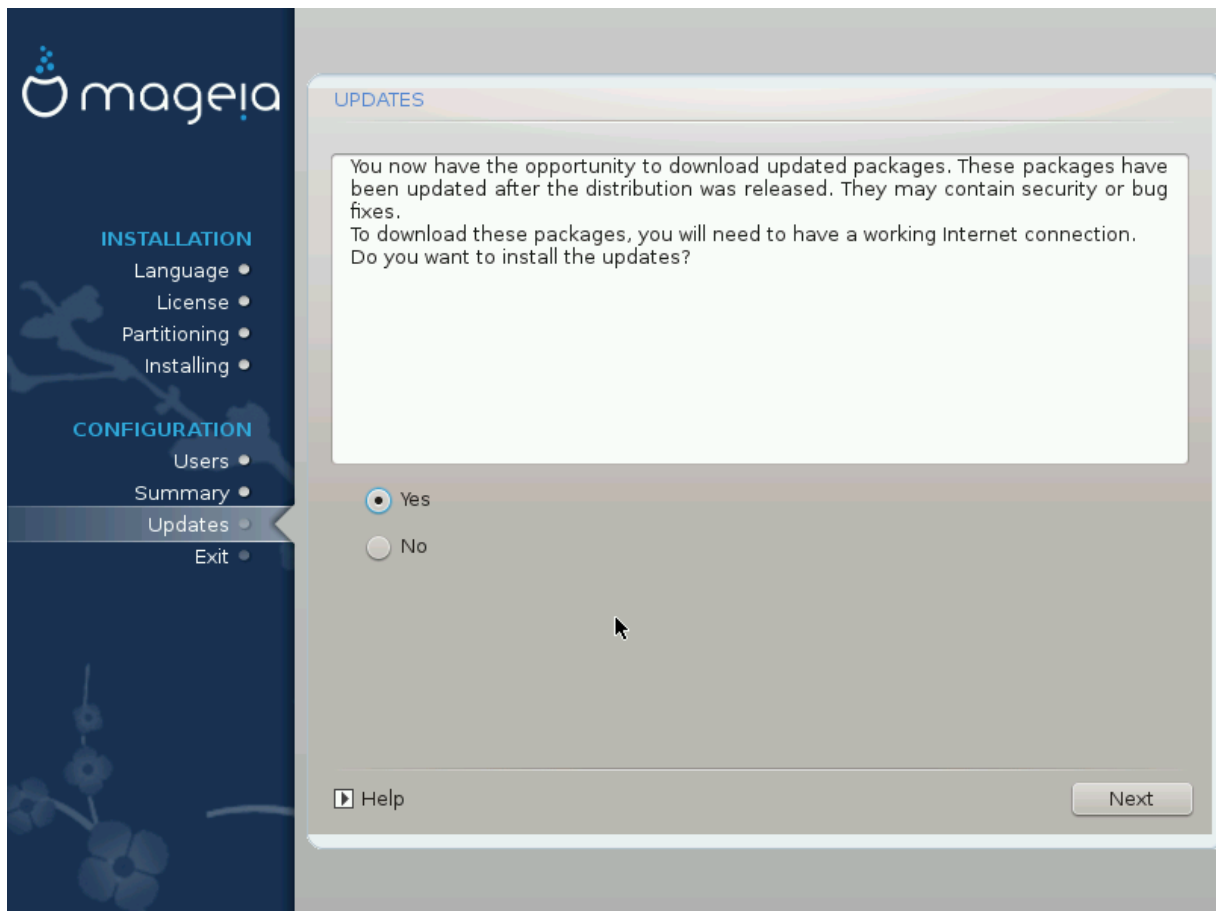
<ポート番号>/<プロトコル>

- <ポート番号>は有効にしたいサービスに割り当てられるポートの値 (例 RSYNC サービスの場合 873) で、RFC-433 で定められています;
- <プロトコル> は TCP もしくは UDP のいずれかです - そのサービスによって用いられるインターネット プロトコルです。

したがって、例えば、RSYNC サービスへのアクセスを有効にするための記述は 873/tcp となります。

サービスが両方のプロトコルで実装されている場合においては、同一ポートに対する 2 組を指定します。

3.18. 更新



このバージョンの Mageia が公開されたので、幾つかのパッケージは更新もしくは改善されているでしょう。

- これらをダウンロードおよびインストールしたい場合ははいを選択します。
- すぐにこれを行いたくないか、もしくはインターネットに接続していない場合はいいえを選択します。
- 次へを押すと続行します。

3.19. おめでとうございます



Mageia のインストールと設定は完了し、安全にインストール メディアを取り除いてコンピュータを再起動できます。

再起動後にブート ロードの画面でお使いのコンピュータ上のオペレーティング システムからいずれかを選択することができます (複数ある場合)。

ブート ロードの設定を調整していなければ、インストールした Mageia が自動的に選択されて開始します。

お楽しみください!

ご不明な点があるか、もしくは Mageia に貢献したいのであれば www.mageia.org/ja/ [http://www.mageia.org/ja/] にアクセスしてください。

3.20. Mageia をアンインストールする

Mageia があなたを納得させなかったか、もしくはあなたがこれを正しくインストールできなかった場合 - 手短かに言えば、あなたはこれを削除したいはずで - これはあなたの権利であり、Mageia はアンインストールの可能性の提供も行います。これはすべてのオペレーティング システムには当てはまりません。

データをバックアップした後、お使いの Mageia インストール メディア DVD を再起動してシステムを復旧を選択し、次に、Restore Windows boot loader を選択します。次のブート時、Mageia オペレーティング システムの選択はなくなって Windows だけになっているでしょう。

Windows で Mageia のパーティションとして使用されていた領域を復旧するには: スタート → コントロール パネル → 管理ツール → コンピューターの管理 → 記憶域 → ディスクの管理をクリックし

ます。Mageia のパーティションは不明と表示され、そのサイズやディスク内の位置からも、あなたはこのパーティションが認識できるでしょう。各パーティションを右クリックして削除を選択すると、その領域は解放されます。

Windows XP をお使いの場合、新しいパーティションを作成してそれをフォーマットできます (FAT32 もしくは NTFS)。そうするとパーティションのドライブ文字が付くでしょう。

Vista もしくは 7 をお持ちの場合、もう一つの可能性があり、解放された領域の左にある既存のパーティションを拡張することができます。gparted のような、windows と linux の両方で使用可能な他のパーティション管理ツールもあります。いつものように、パーティションを変更する際には十分注意し、大事なものはすべて事前にバックアップしておくようにしてください。